SL-11号BOX

取扱説明書 利用編

お使いになる前に
基本的な使いかた
便利な機能
オプションを利用する
SL-10号ハンドフリーボックス（オプション）
こんなときには
付録

技術基準適合認証品

このたびは、SL-11号BOXをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

マーク	説明
⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

注意

この装置は、クラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

ご使用にあたって

●本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This telephone system is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

●本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信、通話などの機会を逸したために生じた損害、または本商品に登録された情報内容の消失などにより生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本商品に登録された情報内容は、別にメモをとるなどして保管くださるようお願いします。

●本商品は、通報先への通報が確実に完了することを約束するものではありません。回線の不通や機器の故障等の可能性も想定し、本商品を用いた通報伝達経路以外の方法（戸外スピーカを設置する等）を別途ご用意いただくことをお勧めいたします。

●本商品を設置するための配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事、修理は違法となり、また事故のもととなりますので絶対におやめください。

●本商品を分解したり改造したりすることは、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。

●本商品をひかり電話対応機器に接続している場合は、停電時には本商品を使用できません。

●本商品をひかり電話対応機器に接続している場合は、緊急通報優先機能が使用できないことがあります。

●操作早見表をご使用の際は、必ず取扱説明書をよくお読みになり、ご理解いただいたうえでお使いください。

●特別な許可がないかぎり、通報先の電話番号に110番、119番、118番は登録しないでください。

●使用済の電池パックなどは貴重な資源です。使用後は端子や接続コードが接触しないように、端子や接続コードにテープを貼るなどの処置をしてから当社のサービス取扱所などへお持ちいただくか、回収を行っている市町村の指示に従ってください。リサイクルの推進にご協力をお願いします。

●商品の外観および機能などの仕様は、お客様にお知らせすることなく変更される場合があります。

●本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら当社のサービス取扱所へお申しつけください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠ 危険

- 電池パックの充電は、本商品に装着して行ってください。その他の充電条件で充電すると、電池パックの液もれ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
- 電池パックは、プラス・マイナスの向きが決められています。本商品に接続するときは、コネクタの向きを確かめて正しく差し込んでください。電池パックの液もれ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
- 電池パックを単体では充電しないでください。電池パックの液もれ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
- 電池パックは、本商品専用です。それ以外の機器には使用しないでください。電池パックの液もれ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
- 電池パックを使用する場合は、以下のことを必ず守ってください。電池パックの液もれ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
  - ・火の中に投入したり、加熱しない。
  - ・直接はんだ付けしない。
  - ・プラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属類で短絡しない。
  - ・水や海水につけたり、ぬらさない。
  - ・ネックレスなどの金属製品と一緒に持ち運んだり、保管しない。
- 電池パックを分解、改造しないでください。電池パックの液もれ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
- 電池パック内部の液が眼に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
- コイン形リチウム電池内部の液が眼に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
- コイン形リチウム電池を誤って飲み込むと、窒息や中毒を起こす危険があります。特に小さなお子様のいるご家庭では、手の届かないところへ保管するなど、ご注意ください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠ 警告

- 本商品で指定されていない電池パックは使用しないでください。電池パックの破損、液もれにより、火災・けが・機器の故障の原因となることがあります。
- 電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、直ちにきれいな水で洗い流してください。
- コイン形リチウム電池内部の液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ぬれた手でコイン形リチウム電池を交換しないでください。感電の原因となることがあります。
- コイン形リチウム電池は正しく取り扱ってください。取り扱いかたを間違えると、コイン形リチウム電池の液もれ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。コイン形リチウム電池のご使用にあたっては、以下のことを必ず守ってください。
  - ・火の中に投入したり、加熱しない。
  - ・プラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属類で短絡しない。
  - ・分解、改造をしない。
  - ・水や海水につけたり、ぬらさない。
  - ・強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない。

設置について

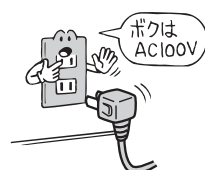
- 本商品、電話機コード、電話機用コンセント、電話機コードのモジュラープラグや送信機のそばに、水や液体の入った花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品などの容器、または小さな金属類を置かないでください。本商品、電話機コード、電話機用コンセント、電話機コードのモジュラープラグや送信機に水や液体がこぼれたり、小さな金属類が中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。

- 本商品、電話機コード、電話機用コンセント、電話機コードのモジュラープラグや送信機を次のような環境に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
  - ・屋外、直射日光が当たる場所、暖房設備やボイラーの近くなどの温度が上がる場所
  - ・調理台のそばなど、油飛びや湯気の当たるような場所
  - ・湿気の多い場所や水·油·薬品などのかかるおそれがある場所
  - ・ごみやほこりの多い場所、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所
  - ・製氷倉庫など、特に温度が下がる場所
- 他の通信機器（ファクスなど）は、本商品のTEL端子に接続してください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

お取り扱いについて

⚠ 警告

● 電源は、AC100 Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● 電源プラグは電源コンセントの奥まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、火災・感電の原因となることがあります。

● テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

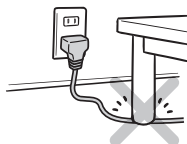
● 電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また、半年から１年に１回は、電源プラグを電源コンセントから抜き、電池パックを抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより、火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関しては当社のサービス取扱所にご相談ください。

● 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。電源プラグ、電話機コードをそれぞれ電源コンセントや電話機用コンセントから抜き、電池パックを抜いて煙が出なくなるのを確認し、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

● 万一、本商品を落としたり、キャビネットを破損した場合、または、本商品や送信機の内部、電話機コード、電話機コードのモジュラープラグに異物や水などが入った場合は、電源プラグ、電話機コードをそれぞれ電源コンセントや電話機用コンセントから抜き、電池パックを抜いて当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。また、電話機コードのモジュラープラグがぬれた場合は、乾いても、その電話機コードを使わないでください。

⚠ 警告

● 本商品を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理は当社のサービス取扱所にご依頼ください（分解、改造された商品は修理に応じられない場合があります）。

● 電源コードおよび電話機コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりするとコードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。コードが傷んだら当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

● 電源コードおよび電話機コードが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災･感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグ、電話機コードのモジュラープラグを抜き、電池パックを抜いて当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

● 本商品、電話機コード、電話機コードのモジュラープラグや送信機に水をかけたり、ぬれた手での操作や電源プラグおよび電話機コードの抜き差しをしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● 本商品をお手入れするときは、電話機コードを電話機用コンセントから抜き、電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。火災・感電の原因となることがあります。

● 本商品のそばで可燃性スプレーを使用しないでください。スプレーのガスが本商品内部の部品などに付着すると、火災・感電の原因となることがあります。

● 本商品のお手入れには、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が本商品内部の部品に付着したり、揮発性ガスが本商品内部に充満すると、火災・感電の原因となることがあります。

● 送信機をねじったり、重い物をのせたり、強く押しつけたりして、圧迫しないでください。破損して、火災・やけど・けがの原因となることがあります。

● 送信機は、心臓ペースメーカの装着部位から22 cm以上離してください。

● 本商品は高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器や心臓ペースメーカなどの近くに設置したり、近くで使用したりしないでください。電子機器や心臓ペースメーカなどが誤動作するなどの原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠ 警告

- 本商品を移動するときは、電源プラグ、電話機コードを抜いたことを確認してから行ってください。電源プラグ、電話機コードが電源コンセント、電話機用コンセントに差し込まれたまま移動すると、電源コードなどが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電や断線の原因となることがあります。

- 本商品（モジュラープラグや電話配線等を含むシステム全体）や送信機を熱器具に近づけないでください。キャビネットやコードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、電源プラグ、電話機コードを電源コンセント、電話機用コンセントから抜いてご使用を控えてください。雷による、火災・感電の原因となることがあります。

設置について

⚠ 注意

- 本商品を壁に取り付けるときは、本商品の重みにより落下しないようしっかりと取り付け設置してください。落下して、けが・破損の原因となることがあります。
- 本商品をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本商品の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

お取り扱いについて

⚠ 注意

- 本商品を長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本商品の電源プラグを電源コンセントから抜いてください。電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、本商品のLINE端子に接続した電話機コードを抜き、電池パックを取り外してから電源プラグを抜いてください。

⚠ 注意

- 本商品に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、こわしたりしてけがの原因となることがあります。
- 本商品の底面には、ゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面が、まれに変色するおそれがあります。
- ストラップを持って送信機を振り回したり、首にかけたまま固定しないで持ち運ばないでください。人に当たったり、ドアに挟まったりして、けが・破損の原因となることがあります。持ち運ぶときは手で押さえるか、ポケットに入れるなどして固定してください。
- コイン形リチウム電池は、プラス（+）、マイナス（−）の向きを確かめて正しく装着してください。正しく装着しないと、正常に動作しない原因となります。
- コイン形リチウム電池が消耗した場合は、すみやかに新しいコイン形リチウム電池と交換してください。消耗したまま使用すると、誤動作の原因となることがあります。新しいコイン形リチウム電池の使用推奨期限の表示を確認のうえ、使用推奨期限を過ぎた電池は使用しないでください。使用推奨期限を過ぎた電池を使用すると、液もれによる故障の原因となることがあります。
- コイン形リチウム電池は、電池残量がある場合でも2年ごとに交換してください。2年以上装着したままで使用すると、液もれによる故障の原因となることがあります。
- 送信機を長期間ご使用にならないときは、安全のために必ずコイン形リチウム電池を取り外してください。

設置について

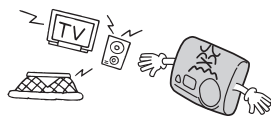
お願い

- 送信機からの電波が届く範囲は、本商品から50 m程度（見通し距離）です。周囲の環境（壁、大型冷蔵庫など）によっては、送信機の使用範囲が狭くなることがあります。あらかじめ通報テスト（☞P57）を行い、通報できる範囲を確かめてください。
- 硫化水素が発生する場所（温泉地）や、塩分の多いところ（海岸）などでは、本商品の寿命が短くなることがあります。
- 本商品を電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。

  - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
  - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - 放送局や無線局などが近く、雑音が大きいときは、本商品の設置場所を移動してみてください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

お取り扱いについて

お願い

● 本商品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

● 本商品や電話機コード、電話機コードのモジュラープラグ、送信機をぬれた雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本商品の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。ただし、電話機コードのモジュラープラグ部分は、よくしぼった場合でも、中性洗剤をつけた布では絶対にふかないでください。

● 本商品は、常時、AC100 Vの商用電源に電源プラグを差したままご使用いただくことを想定した設計となっております。電源プラグを電源コンセントから抜くと、電池パックの寿命が短くなったり、電池切れ通報機能や停電通報機能等が動作することがあります。長期不在などでやむを得ず電源プラグを電源コンセントから抜く必要がある場合は、本商品のLINE端子に接続した電話機コードを抜き、電池パックを取り外してから電源プラグを抜いてください。

● ナンバー・ディスプレイのご利用に際しては、総務省の定める「発信者情報通知サービスの利用における発信者個人情報の保護に関するガイドライン」を尊重してご利用願います。

● ハンドフリー通話でお話しのときは、以下の点に注意してください。
・マイクの近くには、ものなどを置かないでください。
・マイクとの距離は、約50 cmを目安としてお話しください。
・本商品に手や顔を近づけないでください。「ピー」と鳴ることがあります。

● 本商品に装着する電池パックは充電式ですので、設置時には充電されていません。完全充電に要する時間は、すべての機器を接続後、約12時間です。

● ご使用のSL-11号BOXや電話回線に異常がないことを確認するために、定時通報（☞P46）を実施することをお勧めいたします。

お願い

- 送信機は簡易生活防水機能付きです。ただし、水につけることはできませんので次のようなことにご注意ください。
  - ・常時、水のかかるような環境には放置しないでください。
  - ・温度の高低差が大きい場所に長時間放置しないでください。
  - ・ぬれたまま、凍るようなところには放置しないでください。
  - ・シャンプー、中性洗剤などがつくと故障や変色の原因になりますのでご注意ください。
- 送信機の防水機能を維持するために、本体と電池カバーの防水パッキンは、2年ごとに交換することをお勧めいたします。
  パッキンの交換は有償にて承ります。
  詳しくは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店にお問い合わせください。
- コイン形リチウム電池を素手で触れると汗（塩分）や油脂等によって電池の接触が損なわれる可能性があります。コイン形リチウム電池の取り付け交換のときは、電池の表面を乾いた布でよくふいてから送信機に取り付けてください。
- コイン形リチウム電池は、電池寿命内でもまれに液もれなどにより使用できなくなることがあります。定期的に通報テスト（☞P57）を行うことをお勧めいたします。
- コイン形リチウム電池と、電池端子との接点を良好な状態に保つために定期的に電池表面及び電池端子を乾いた布等で拭くことをお勧めいたします。

廃棄（または譲渡、返却）される場合のご注意

本商品は、お客様固有の情報を保存または保持可能な商品です。本商品内に保存または保持された情報の流出による不測の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品内に保存または保持された情報を消去する必要があります。
保存または保持されたデータを消去するには、お買い求め時の設定に戻す操作を行ってください。
操作の方法は、『SL-11号BOX取扱説明書　設定編』の「お買い求め時の設定に戻すには（初期化）」を参照してください。

電話回線のダイヤル種別契約を変更する際のご注意

電話回線のダイヤル種別契約を変更する際は、必ず事前に工事者に確認してください。
契約を変更すると正常に通報できなくなる場合があります。

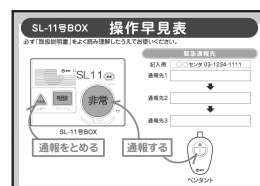
目次

● この取扱説明書では、小電力型ワイヤレスリモートスイッチ5送信機を「ペンダント」と記載しています。

マニュアルの読み進めかた

本商品を最初にお使いになるときは、『取扱説明書　利用編』、『取扱説明書　設定編』、『操作早見表』を次の順序でお読みください。

取扱説明書　利用編

取扱説明書　設定編

操作早見表

取扱説明書 利用編　**お使いになる前に**　☞P22

セットを確認してください

箱を開け、付属品がすべてそろっているか確認します。

↓

取扱説明書 設定編　**接続方法　基本設定**

接続します

本商品と電話回線、電話機を接続します。

基本設定をします

日付と時刻、こちらの電話番号、通報先の電話番号などを登録し、電話がかかることを確認します。

↓

操作 早見表　**通報先**

通報先の名前と電話番号を記入します

登録した通報先の名前と電話番号を空欄に記入します。

SL-11号BOXをお使いになる場合

取扱説明書 利用編　**操作 早見表**　**基本的な使いかた**　☞P31

基本的な使いかたを覚えましょう

緊急通報のしかた、電話をかけたり受けたりする操作、音量の調節方法を確認します。

↓

取扱説明書 利用編　**便利な機能**　☞P41

便利な使いかたを紹介します

本商品の便利な機能や、設定を変更することによって利用できる機能を紹介します。

SL-11号BOX（ワイヤレスセット）をお使いになる場合

取扱説明書 利用編　操作 早見表

基本的な使いかた ☞P31

基本的な使いかたを覚えましょう

緊急通報のしかた、電話をかけたり受けたりする操作、音量の調節方法を確認します。

取扱説明書 利用編

便利な機能 ☞P41

便利な使いかたを紹介します

本商品の便利な機能や、設定を変更することによって利用できる機能を紹介します。

取扱説明書 利用編

オプションを利用する ☞P56

ペンダント※の使いかたを覚えましょう

離れたところから、ペンダント※を使って通報する方法を確認します。

※この取扱説明書では、小電力型ワイヤレスリモートスイッチ5送信機を「ペンダント」と記載しています。

取扱説明書 利用編

特長 ☞P18

SL-11号BOXの特長を紹介します

SL-11号BOXを使ってどんなことができるのか見てみましょう。

取扱説明書 利用編

オプションを利用する ☞P52

オプションを紹介します

ペンダント、リモートスイッチS2など、本商品で利用できるオプションを紹介します。

取扱説明書 利用編

SL-10号ハンドフリーボックス（オプション） ☞P68

SL-10号ハンドフリーボックスの使いかたを覚えましょう

オプションのSL-10号ハンドフリーボックスを使って通報する方法を確認します。

取扱説明書 利用編

こんなときには ☞P75

こんなときにお使いください

停電になったときの動作、故障かな？と思ったときの確認方法などを説明します。

取扱説明書 設定編

システムデータ設定

いろいろな機能を設定します

電話機からいろいろな機能を設定します。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書の構成

お使いになる前に
お使いになる前に知っておいていただきたいことをまとめています。

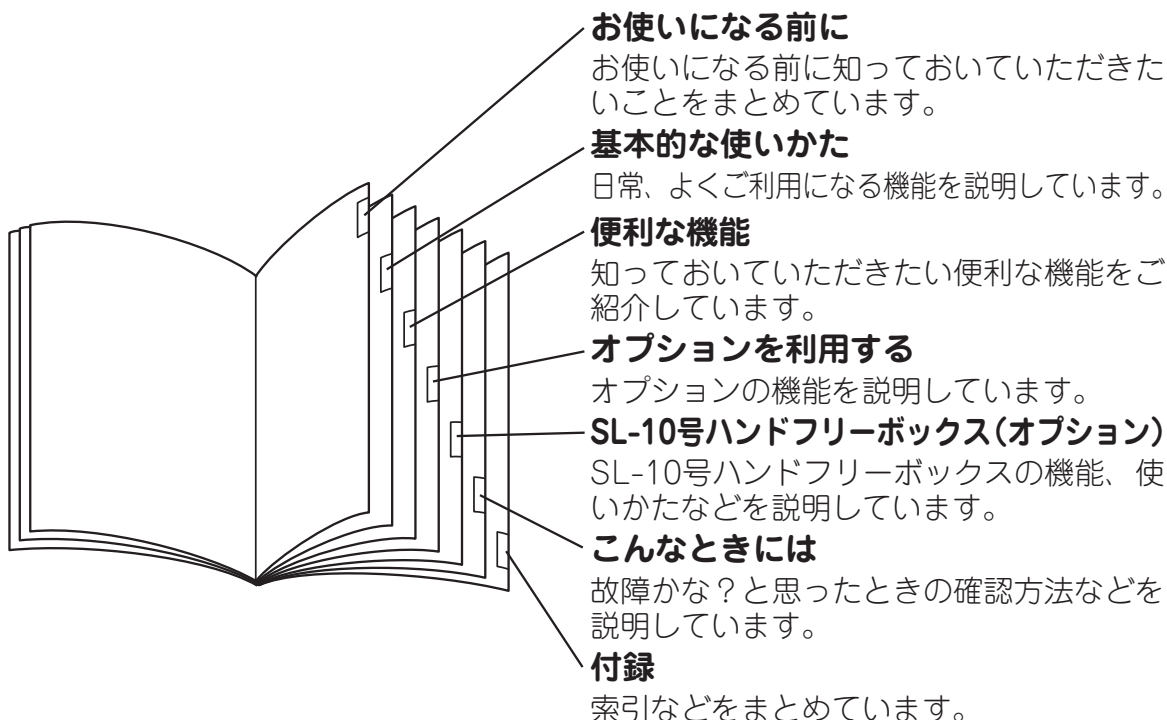
基本的な使いかた
日常、よくご利用になる機能を説明しています。

便利な機能
知っておいていただきたい便利な機能をご紹介しています。

オプションを利用する
オプションの機能を説明しています。

SL-10号ハンドフリーボックス(オプション)
SL-10号ハンドフリーボックスの機能、使いかたなどを説明しています。

こんなときには
故障かな？と思ったときの確認方法などを説明しています。

付録
索引などをまとめています。

操作ページの構成

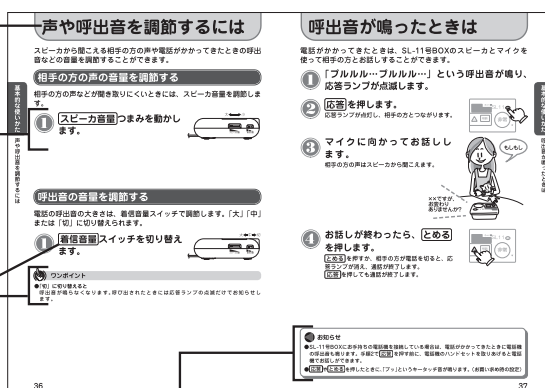
タイトル
目的ごとに、タイトルが付けられています。

操作手順説明
操作内容を示すイラストや、操作で使うボタンなどを示しています。

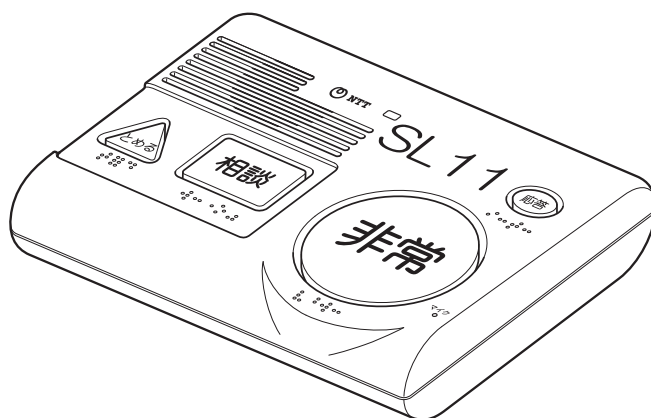
［　　］はボタンなどを示しています。

ワンポイント
知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明を示しています。

お願いまたはお知らせ

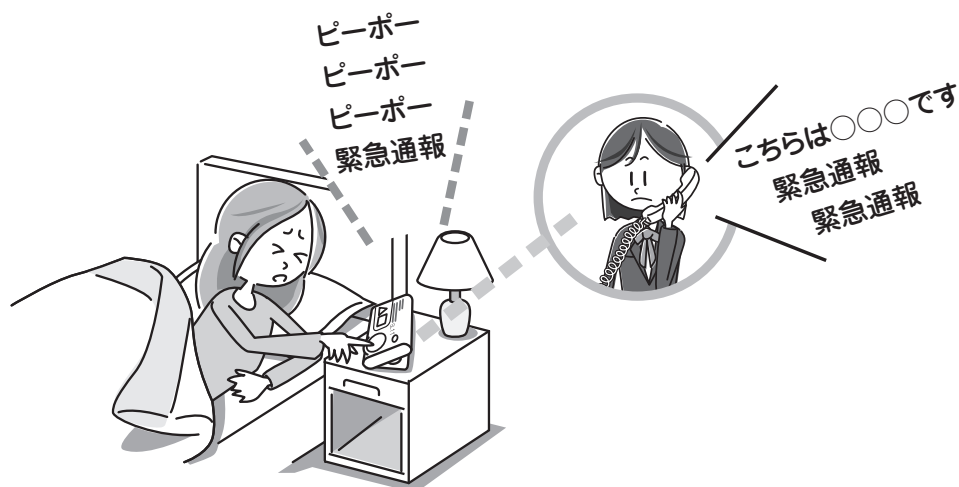
〈お願い〉
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。

〈お知らせ〉
この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

お使いになる前に

ここでは、SL-11号BOXをお使いになる前に知っておいていただきたいことをまとめています。

特長

SL-11号BOXは、あらかじめ登録しておいた通報先に、簡単な操作で緊急通報や相談電話がかけられる装置です。一人暮らしの方や体の不自由な方に、いざというときの安心をお届けします。

■ 緊急通報（☞P32）

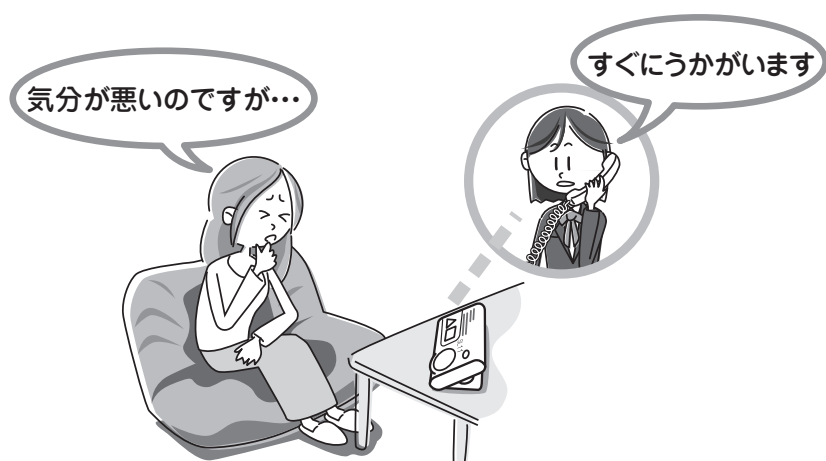
非常 を押すだけで、通報先に電話がつながります。通報先へは、音声合成メッセージなどでこちらの電話番号などを通知します。

■ 相談電話（☞P34）

相談 を押すだけで、登録してある相談先に電話がかけられます。

■ 通報メッセージ（☞P32、設定編）

通報先へ、音声合成メッセージでこちらの電話番号などを通知します。あらかじめ用意されている音声合成メッセージのほか、自分で録音したメッセージを使用することもできます。

■ ハンドフリー通話（☞P32）

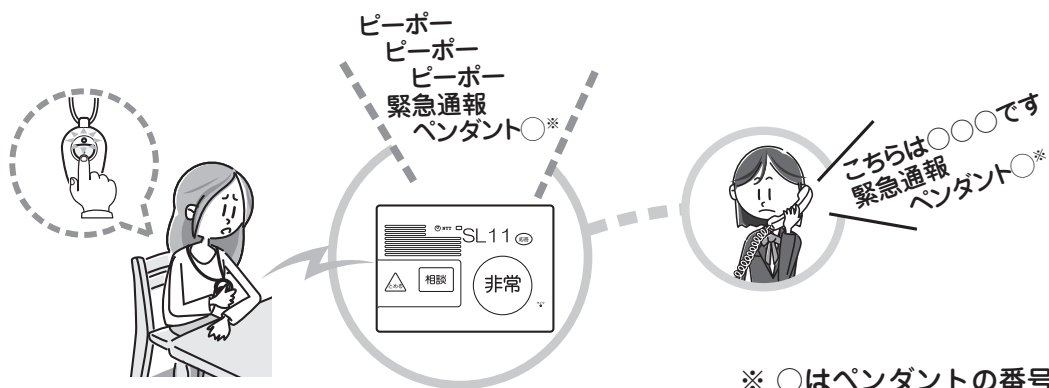
通報先と電話がつながると、SL-11号BOXのマイクとスピーカを使って、お話しすることができます。

● SL-11号BOXおよびSL-10号ハンドフリーボックスは、オプションのスタンド（☞P52）を取り付けてご利用いただけます。この取扱説明書では、スタンドを取り付けた状態の使用例を掲載しています。

特長

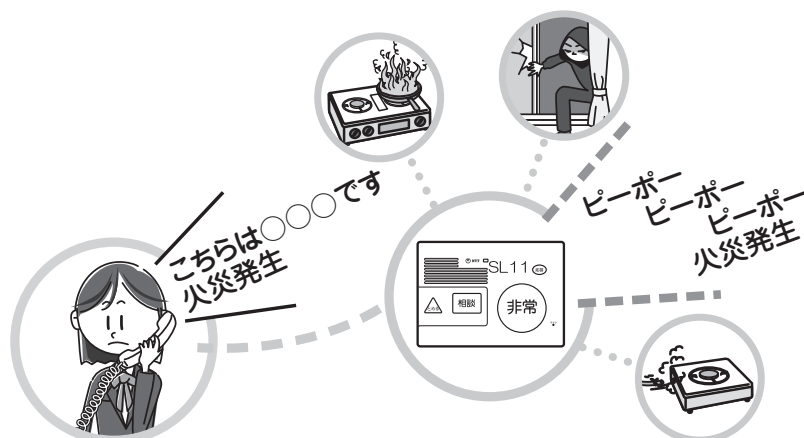
■ 通報が完了したことを確認する（☞P43）

通報先の相手の方が㊟ ① ♯を押すことによって、SL-11号BOXに通報完了確認の信号を送ることができます。通報先が留守番電話などで応答した場合は、通報完了確認の信号が送られてこないので、通報が完了したことにはなりません。

■ 離れたところからの通報（☞P56）

SL-11号BOX（ワイヤレスセット）をお使いの場合は、ペンダントを使って、SL-11号BOXから離れたところからでも緊急通報ができます。

※ ○はペンダントの番号

■ センサによる自動通報（☞P42）

市販の防犯・火災センサなどを接続すると、火災やガスもれ、空き巣など、万一のときに、登録してある通報先に通報されます。

● SL-11号BOXのセンサ端子には、市販のセンサやオプションのリモートスイッチS2を接続することができます。

■ ひかり電話に接続可能

一般の電話回線のほか、ひかり電話対応機器のアナログポートに接続してご利用になれます。

■ 停電時も安心（☞P77）

停電になったときも、緊急通報をしたり、電話を受けたりすることができます。

● 電池パックを取り付けていれば、停電になったときも、すべての機能をご利用になれます。（☞P29）

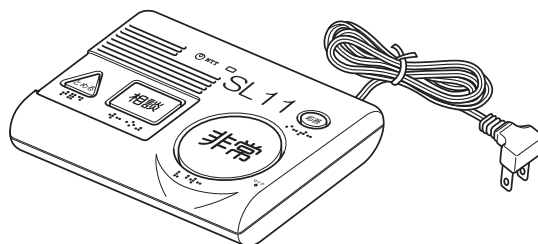
■ 音声案内で設定内容を確認（☞設定編）

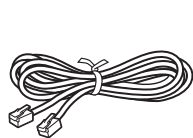
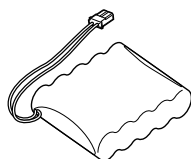
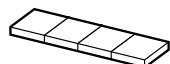
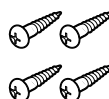
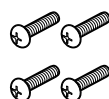
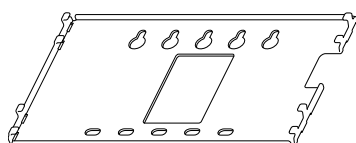
電話機を使って機能を設定するときに、ハンドセットからの音声案内で設定内容を確認することができます。

セットを確認してください

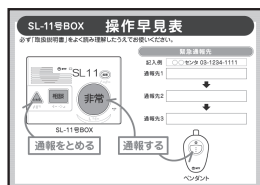
SL-11号BOX

次のものがそろっているか、お確かめください。

■ 本体

SL-11号BOX

■ 付属品

電話機コード（約3 m）（1本）

電池パック（1個）

ゴム足（4個）

壁掛け用木ネジ（4本）

メートルネジ（4本）（JISボックス用）

壁掛け金具（1個）

取扱説明書　利用編（1部）

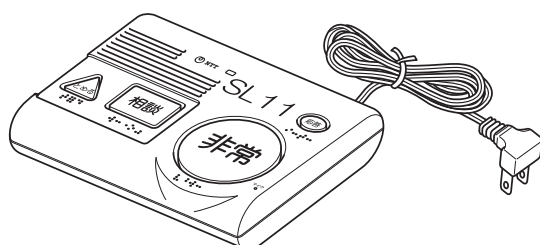
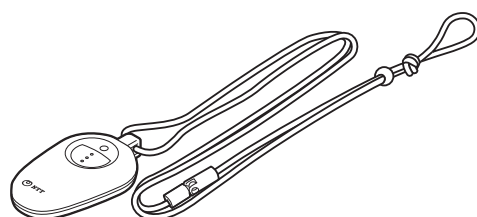
取扱説明書　設定編（1部）

操作早見表（1部）

■「NTT通信機器お取扱相談センタ」シール（1枚）
■保証書（1枚）

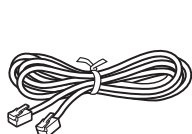
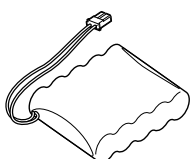
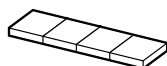
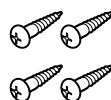
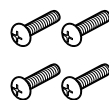
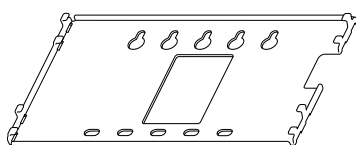
- セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁、落丁があった場合などは、当社のサービス取扱所にご連絡ください。
- 取扱説明書は、SL-11号BOX、SL-11号BOX（ワイヤレスセット）で共通です。

SL-11号BOX（ワイヤレスセット）

SL-11号BOX（ワイヤレスセット）をお買い求めの方は、次のものがそろっているか、お確かめください。

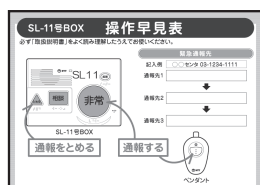
■ 本体

SL-11号BOX

小電力型ワイヤレスリモートスイッチ5送信機

■ 付属品

電話機コード（約3 m）（1本）

電池パック（1個）

ゴム足（4個）

壁掛け用木ネジ（4本）

メートルネジ（4本）（JISボックス用）

壁掛け金具（1個）

タグ（電池交換時期表示札）（1個）

取扱説明書　利用編（1部）

取扱説明書　設定編（1部）

操作早見表（1部）

■「NTT通信機器お取扱相談センタ」シール（1枚）
■保証書　SL-11号BOX用（1枚）
■保証書　小電力型ワイヤレスリモートスイッチ5送信機用（1枚）
■コイン形リチウム電池（CR2450）（1個）

- 送信機（ペンダント）には、コイン形リチウム電池（CR2450）が取り付けられていません。ペンダントの電池を交換するには（☞P60）を参照して、送信機（ペンダント）にコイン形リチウム電池を取り付けてください。
- この取扱説明書では、小電力型ワイヤレスリモートスイッチ5送信機を「ペンダント」と記載しています。

各部の名前とはたらき

SL-11号BOX

■ 前面

電源ランプ
電源が入っているときは点灯します。
通報するときに点滅します。（☞P32）

スピーカ

応答ボタン
電話を受けるときに押します。（☞P37）

応答ランプ
通話中に点灯します。
（☞P32）
着信時に点滅します。
（☞P37）

NTT
SL11
応答
相談
非常
とめる
マイク

非常ボタン
通報先に通報するときに押します。（☞P32）

非常ランプ
非常ボタンを押して通報するときに点滅します。（☞P32）

とめるボタン
間違えて非常ボタンや相談ボタンを押したときに押すと、通報や呼び出しが停止します。
ハンドフリー通話中に押すと通話が切れます。

相談ボタン
相談先にかけるときに押します。（☞P34）

相談ランプ
相談先にかけるときに点滅します。（☞P34）

マイク
お話しするときは、ここに向かって話しかけます。

■ 左側面

スピーカ音量つまみ
相手の方の声の音量を調節するときに使います。（☞P36）

着信音量スイッチ
電話がかかってきたときなどの呼出音の音量を調節するときに使います。（☞P36）

お知らせ

●形状は一例を示します。

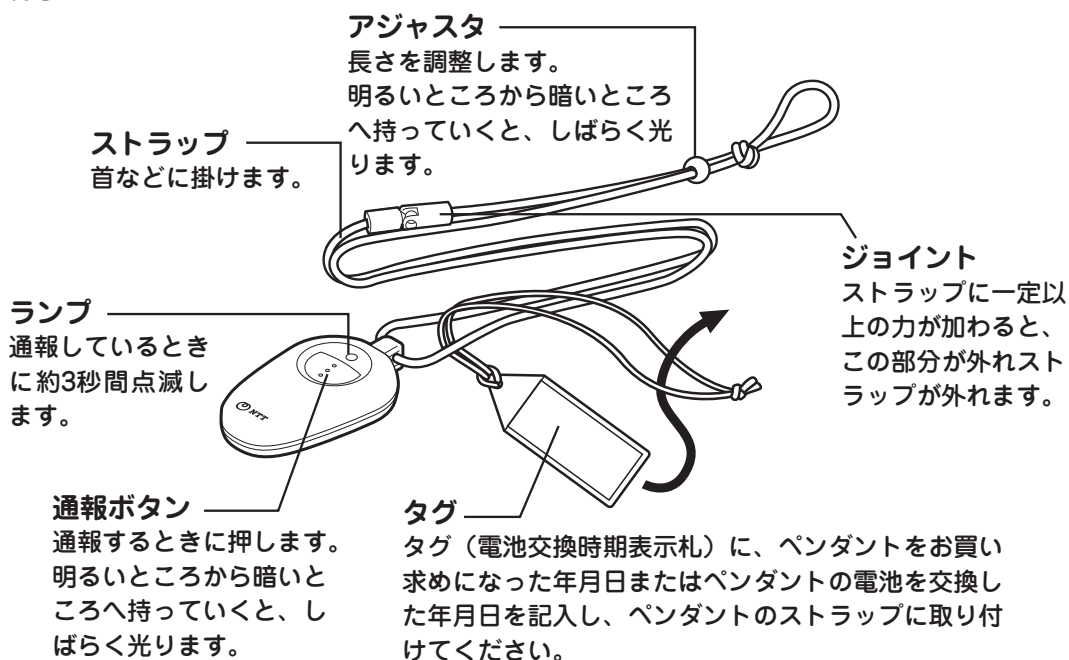
■ 底面

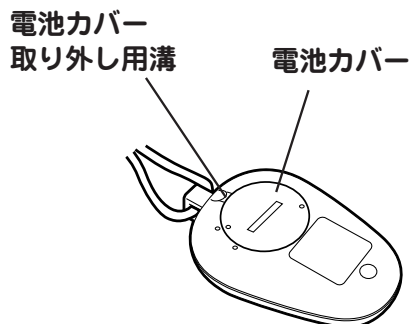
お知らせ

●形状は一例を示します。

各部の名前とはたらき

小電力型ワイヤレスリモートスイッチ5送信機（ペンダント）

■ 前面

● この取扱説明書では、小電力型ワイヤレスリモートスイッチ5送信機を「ペンダント」と記載しています。

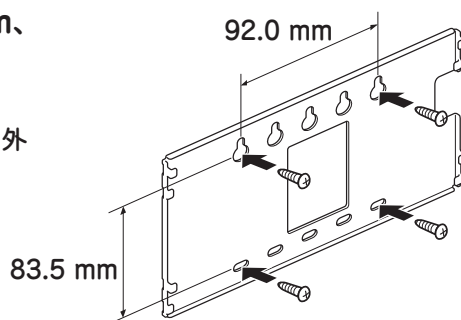
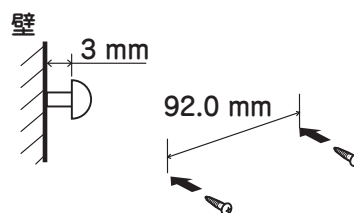
■ 裏面

 お知らせ

●形状は一例を示します。

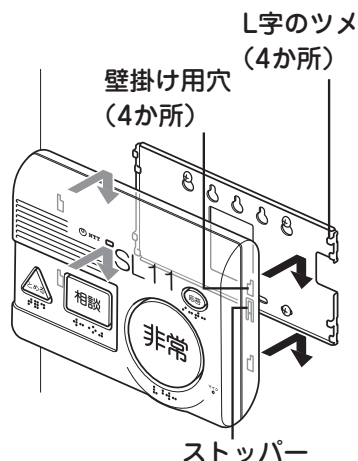
壁掛けにして使うには

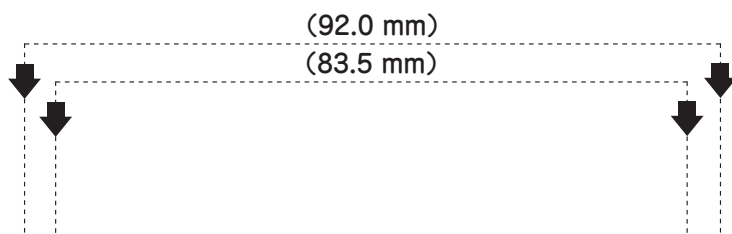
SL-11号BOXを壁掛けにして使用することができます。付属品の壁掛け金具で壁掛け用木ネジ4本を使って壁や柱などに取り付けてご使用ください。

SL-11号BOXを壁に取り付ける

❶ **4本のネジの取り付け位置（左右幅92.0 mm、上下幅83.5 mm）を決めます。**
壁掛け金具の右側は30 cm以上空けてください。
30 cm以上空けないと、SL-11号BOXを壁から取り外すことができなくなります。

❷ **最初に上の2本のネジを壁に取り付けます。**
このときネジの頭を壁より約3 mm程度突き出した状態にしてください。

❸ **壁掛け金具の上の穴を壁に取り付けたネジに引っかけます。**

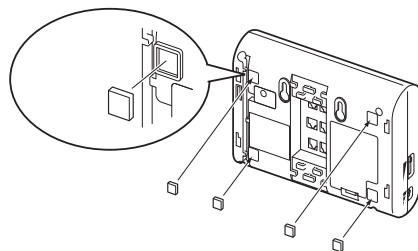
❹ **壁掛け金具の下の穴に残りの2本のネジを取り付け、上のネジの頭をねじ込み、壁掛け金具を固定します。**

❺ **壁掛け金具のL字のツメ（4か所）をSL-11号BOXの底面の壁掛け用穴に差し込み、SL-11号BOXを下にスライドさせます。**
このとき壁掛け金具のＬ字のツメで底板のストッパーを押し込まないでください。

壁掛け金具を壁に取り付ける際、この矢印の間隔に壁掛け用木ネジを取り付けてください。

（92.0 mm）
（83.5 mm）

（次ページへつづく）

壁掛けにして使うには

 ワンポイント

●横置きにして使うには
SL-11号BOXを壁掛けにしないで、横置きにしてお使いになることもできます。
横置きにする場合は、付属品のゴム足（4個）をSL-11号BOXの底面に貼り付けてください。
壁掛けにして使用するときやスタンド（オプション）を取り付けて使用する場合は、ゴム足を取り付ける必要はありません。

 お知らせ

●直接壁や柱に取り付ける場合は、壁掛け用木ネジをご使用ください。
●JISボックス（JIS C8340:1999年）に取り付ける際は、メートルネジをご使用ください。
●JISボックスの大きさに合わせてネジ取り付け位置を調整してください。

STOP **お願い**

●壁掛け金具の右側は30 cm以上空けてください。30 cm以上空けないと、SL-11号BOXを壁から取り外すことができなくなります。

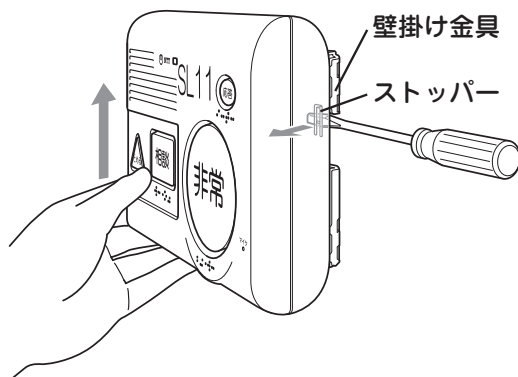
⚠注意

ドアの近くやベニヤ板などの薄い板壁、ボード板（石膏板）などの壁にSL-11号BOXを取り付けないでください。振動や自らの重みで落下して、けが、破損の原因となることがあります。

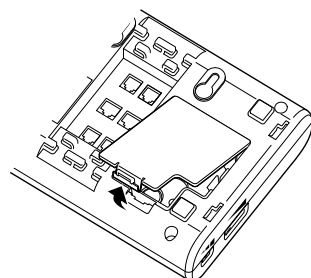
SL-11号BOXを壁から取り外す

❶ **SL-11号BOXを持ち上げながら、マイナスドライバーを壁掛け金具の穴の上側に合わせ、約1 cm差し込みます。**

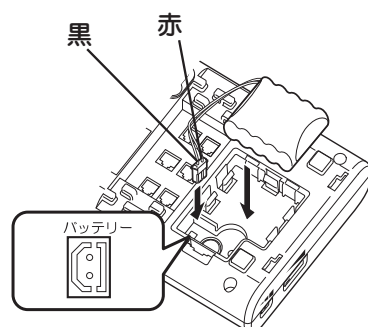
❷ **マイナスドライバーの先でストッパーを軽く押すとロックが外れますので、SL-11号BOXを上にスライドさせます。**

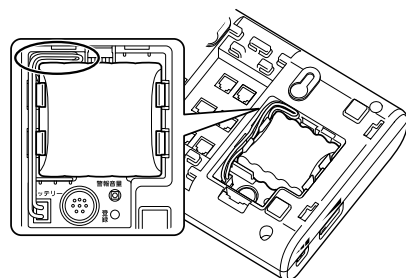
❸ **SL-11号BOXを壁掛け金具から外します。**

停電になったときのために

停電になったときでも緊急通報や相談電話ができるようにするために、付属品の電池パックをセットします。
電池パックを取り付けたあと、SL-11号BOXの電源プラグを電源コンセント（AC100 V、50 Hzまたは60 Hz）に差し込むと電池パックの充電を開始します。

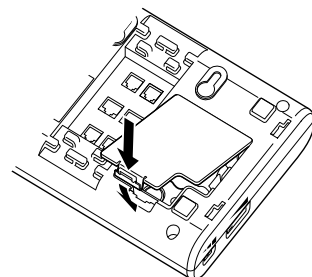
電池パックをセットする

❶ 電池カバーのツメを押しながら、持ち上げるようにして電池カバーを開けます。

❷ 電池パックのコネクタを差込口に差し込み、電池パックを入れます。

電池パックのコネクタを差し込める向きは一方向に決まっています。力を入れすぎないように注意して差し込んでください。
電池パックは、電池パック固定用ツメ（5か所）で固定されます。

❸ 電池パックのコードを電池パック固定用ツメとケースの間に通します。

コードの一部を折り返し、電池パックとケースの間を通します。
このとき電池パック固定用ツメと電池パックの間にコードを挟まないようにしてください。

（次ページへつづく）

停電になったときのために

④ **電池カバーを取り付けます。**

⑤ **電源プラグを電源コンセントに差し込みます。**
電池パックの充電を開始します。

ワンポイント

●**電池パックの使用可能時間は**
電池パックが満充電の状態で停電開始から約6時間以内であれば、通電と同じ状態で1回以上緊急通報が行えます。ただし、オプション機器の接続の有無およびSL-11号BOXやオプション機器の使用状態などによって、通電と同じ状態で緊急通報が行える時間が短くなることがあります。

●**電池切れ通報（☞P44）を設定していると**
電池の残量が少なくなると、連絡先に自動的に通報します。

お願い

●電池パックは、電源プラグを電源コンセントから抜いた状態で取り付けてください。電源プラグを電源コンセントに差し込んだまま電池パックを取り付けた場合は、電池パックの充電を開始しません。

●電池カバーを取り付けるときに、電池パックのコードを電池カバーとケースの間に挟み込まないようにしてください。

●電池パックのコードを無理に引っ張ったり、コネクタを無理に差し込んだりしないでください。

●初めてお使いになるときや電池パックを交換したときは、必ず12時間以上充電してください。12時間以上充電する前に停電になった場合は、電池パックで動作しないことがあります。

●電池パックの取り付けは、あらかじめ静電気を除去してから行ってください。

⚠危険

●電池パックについて

電池パックの取り扱いは、次の点にご注意ください。
・必ず専用のものをお使いください。
・取り出して充電しないでください。
・火の中に投入したり、分解、加熱しないでください。
・端子を短絡させないでください。

基本的な使いかた

ここでは、SL-11号BOXの基本的な使いかたを説明します。

緊急通報をするには

体の調子が悪いときなどに、登録してある通報先に通報できます。

❶ 非常 を押します。

スピーカから「ピーポー、ピーポー、ピーポー、緊急通報」という警報音と警報メッセージが流れ、電源ランプと非常ランプが点滅します。
通報先に電話がつながると非常ランプが点灯し、「こちらは(電話番号)です。緊急通報。緊急通報。ピー、ピー」という通報メッセージがスピーカからと相手の方の両方に流れます。
応答ランプが点灯します。

❷ マイクに向かってお話しします。

通報メッセージが終わったあとにお話しください。

❸ お話しが終わったら、 とめる を押します。

非常ランプと応答ランプが消え、電源ランプが点灯し、通報を終了します。

ワンポイント

●間違えて 非常 を押したときは
とめる を押します。通報が停止します。

●1か所目の通報先に電話がつながらなかったときは
通報先2→通報先1→通報先2→通報先3の順に通報します。通報が全て完了するまで、設定した回数通報を繰り返します。（お買い求め時の設定）
通報先の設定がない場合は、通報を行いません。

ワンポイント

●**録音したメッセージで通報するには（☞設定編）**
通報メッセージを録音したメッセージに変更することもできます。

●**通報が完了したことを確認するには**
音声通報時の通報完了判定（☞設定編）を「プッシュ信号受信で完了判定」に設定します。
- 通報先の相手の方がプッシュ式（PB）電話機で㊀ ① ⊞を押すことによって、SL-11号BOXに通報完了確認の信号を送ることができます。お買い求め時は「通常の完了判定」に設定されています。「プッシュ信号受信で完了判定」に設定すると、通報先が留守番電話などで応答した場合は、通報完了確認の信号が送られてこないので、通報が完了したことにはなりません。
- 手順1の通報メッセージは、「こちらは（電話番号）です。緊急通報。緊急通報。㊀ ① ⊞を押してください」になります。
- 通報方式（☞設定編）をデータ通報（SL3手順＋音声通報［合成音声］）またはデータ通報（SL5手順＋音声通報［合成音声］）に設定したときは、手順1の通報メッセージは「こちらは（電話番号）です。緊急通報。緊急通報」になります。

お知らせ

●電話機でお話し中や、電話がかかってきているときに緊急通報が行われると、「緊急通報のため電話を切ります。緊急通報のため電話を切ります」というメッセージが流れ、通話が切れます。このあと、SL-11号BOXが緊急通報を行います。

●こちらの電話番号(☞設定編)を登録していない場合は、手順1で通報先に電話がつながると「緊急通報。緊急通報」という通報メッセージが流れます。

●手順1の通報メッセージは3回流れます。（お買い求め時の設定）

●手順2のハンドフリー通話は約3分で切れます。通報先1への通報を終了し、次の通報先へ通報します。ハンドフリー通話時間を変更することもできます。（☞設定編）

●手順3で［とめる］を押して通話を終了したときは、通報先（☞設定編）が複数登録されていて、通報終了タイミング（☞設定編）が「全宛先に通報して終了する」に設定されている場合でもすべての通報を終了します。

●手順3で［とめる］を押さないで相手の方が電話を切った場合は、通報先1への通報を終了し、次の通報先へ通報します。

●［非常］や［とめる］を押したときに、「プッ」というキータッチ音が鳴ります。（お買い求め時の設定）

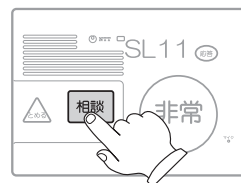
お願い

●電話回線のダイヤル種別契約を変更する際は、必ず事前に工事者に確認してください。契約を変更すると正常に通報できなくなる場合があります。

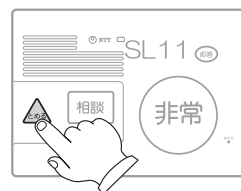
相談電話をかけるには

ちょっと困ったときなどに、登録してある相談先にボタンひとつで電話をかけられます。

相談を押します。

電源ランプと相談ランプが点滅します。
相談先に電話がつながると相談ランプが点灯し、「ピー、ピー」という音がスピーカからと相手の方の両方に流れます。
応答ランプが点灯します。

マイクに向かってお話しします。

③ お話しが終わったら、とめるを押します。

相談ランプと応答ランプが消え、電源ランプが点灯し、相談電話を終了します。

ワンポイント

●**間違えて［相談］を押したときは**
［とめる］を押します。呼び出しが停止します。

●**1か所目の通報先に電話がつながらなかったときは（☞P32）**

●**録音したメッセージで通報するには（☞設定編）**
通報メッセージを録音したメッセージに変更することもできます。

お知らせ

●手順2のハンドフリー通話は約3分で切れます。通報先1への通報を終了し、次の通報先へ通報します。ハンドフリー通話時間を変更することもできます。（☞設定編）

●手順3で［とめる］を押して通話を終了したときは、通報先（☞設定編）が複数登録されていて、通報終了タイミング（☞設定編）が「全宛先に通報して終了する」に設定されている場合でもすべての通報を終了します。

●手順3で［とめる］を押さないで相手の方が電話を切った場合は、通報先1への通報を終了し、次の通報先へ通報します。

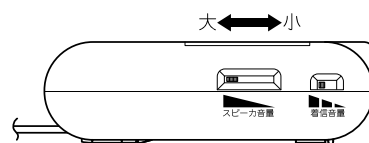
●［相談］や［とめる］を押したときに、「プッ」というキータッチ音が鳴ります。（お買い求め時の設定）

声や呼出音を調節するには

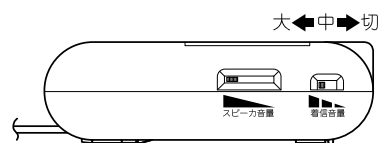
スピーカから聞こえる相手の方の声や電話がかかってきたときの呼出音などの音量を調節することができます。

相手の方の声の音量を調節する

相手の方の声などが聞き取りにくいときには、スピーカ音量を調節します。

スピーカ音量つまみを動かします。

呼出音の音量を調節する

電話の呼出音の大きさは、着信音量スイッチで調節します。「大」「中」または「切」に切り替えられます。

着信音量スイッチを切り替えます。

ワンポイント

●「切」に切り替えると
呼出音が鳴らなくなります。呼び出されたときには応答ランプの点滅だけでお知らせします。

呼出音が鳴ったときは

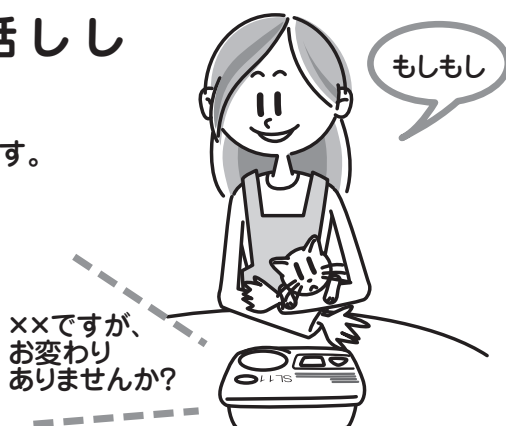
電話がかかってきたときは、SL-11号BOXのスピーカとマイクを使って相手の方とお話しすることができます。

1 「プルルル…プルルル…」という呼出音が鳴り、応答ランプが点滅します。

2 応答 を押します。

応答ランプが点灯し、相手の方とつながります。

3 マイクに向かってお話しします。

相手の方の声はスピーカから聞こえます。

4 お話しが終わったら、 とめる を押します。

とめる を押すか、相手の方が電話を切ると、応答ランプが消え、通話が終了します。
応答 を押しても通話が終了します。

お知らせ

- SL-11号BOXにお手持ちの電話機を接続している場合は、電話がかかってきたときに電話機の呼出音も鳴ります。手順2で 応答 を押す前に、電話機のハンドセットを取りあげると電話機でお話しができます。
- 応答 や とめる を押したときに、「プッ」というキータッチ音が鳴ります。（お買い求め時の設定）

お手持ちの電話機を接続して利用するには

SL-11号BOXにお手持ちの電話機を接続して電話をかけたり受けたりすることができます。

電話をかける

電話機のハンドセットを取りあげて、「ツー」という発信音が聞こえてから電話番号を押します。
相手の方が出たらお話しします。

電話を受ける

呼出音が鳴ったら、電話機のハンドセットを取りあげて、お話しします。

お知らせ

- 通報中は、SL-11号BOXに接続した電話機はご利用になれません。
- SL-11号BOXのシステムデータを設定（☞設定編）したあとに電話機をご利用になるときは、ハンドセットを置き、3秒以上待ってからハンドセットを取りあげてください。
- 着信自動応答の遅延時間（☞設定編）を「即応答」に設定している場合、電話がかかってきたときに電話機の呼出音が1回鳴ることがあります。
- お手持ちのファクスやナンバー・ディスプレイ対応通信機器を接続してお使いになることもできます。

緊急時には通報を優先する（緊急通報優先機能）

優先通報選択の設定を「優先する」に設定していると、次のような場合に 非常 が押されたりセンサからの異常が検出されると、電話機の通話を強制的に終了し、優先的に通報を行うことができます。

・電話をかけているとき
・電話機でお話し中のとき
・電話がかかってきているとき

●お買い求め時は、優先通報選択の設定は「優先する」に設定されています。（☞設定編）

ワンポイント

●**SL-11号BOXに接続した電話機でお話し中のときは**
「緊急通報のため電話を切ります。緊急通報のため電話を切ります」という切断メッセージがSL-11号BOXに接続した電話機とお話し中の相手の方の両方に流れ、通話が切れます。
このあとにSL-11号BOXが通報を行います。通報中はSL-11号BOXに接続した電話機は使用できなくなります。

●**電話がかかってきているときは**
かかってきた電話にSL-11号BOXが応答し、「緊急通報のため電話を切ります。緊急通報のため電話を切ります」という切断メッセージが電話をかけてきた相手の方に流れ、通話が切れます。
このあとにSL-11号BOXが通報を行います。通報中はSL-11号BOXに接続した電話機は使用できなくなります。

お知らせ

●お手持ちの電話機の詳しい使いかたについては、電話機の取扱説明書を参照してください。

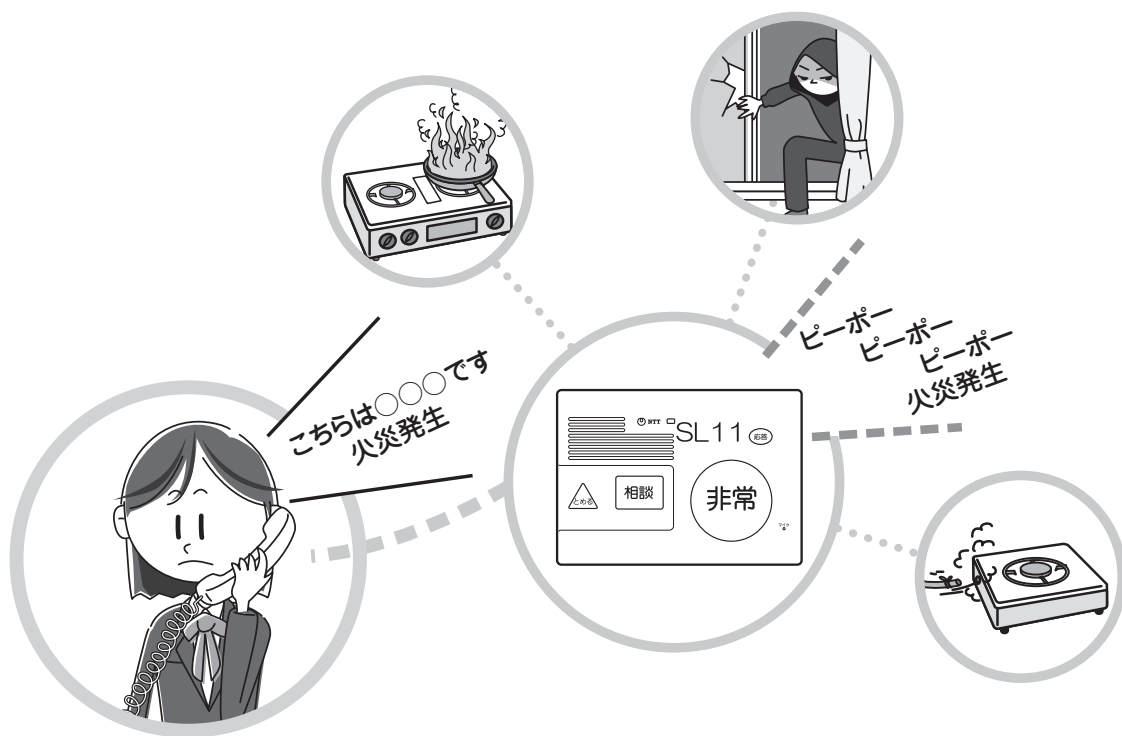
便利な機能

知っておいていただきたい便利な機能をご紹介します。

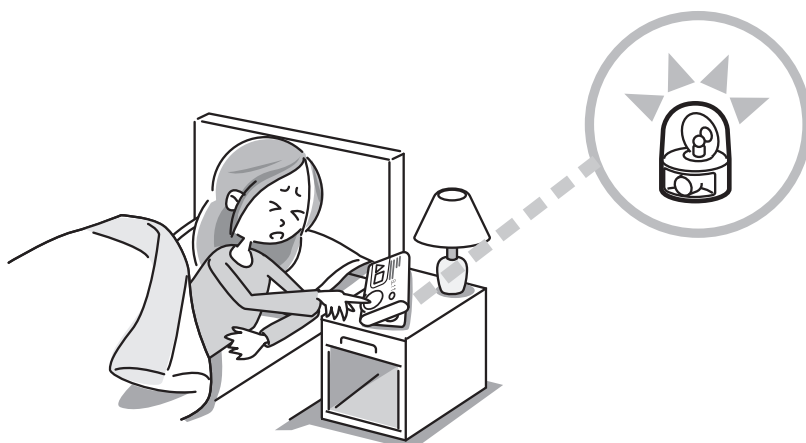
便利な機能のご紹介

センサが感知したら通報する（センサ通報機能）

SL-11号BOXには、火災センサ、ガスもれセンサ、防犯用センサ、生活リズムセンサなどの市販のセンサを最大4台接続することができます。
これらのセンサが異常を感知すると、センサからSL-11号BOXに通報され、「ピーポー、ピーポー、ピーポー、火災発生」などの警報音や警報メッセージを鳴らし、あらかじめ登録してある通報先に通報することができます。

●お買い求め時は、センサの通報の可否は「通報する」に設定されています。（☞設定編）

電話回線を介さずに通知する（外部出力機器による通知）

SL-11号BOXの接点出力端子に市販の回転灯などの外部出力機器を接続して、電話回線を介さずに緊急事態を通知することができます。

●お買い求め時は、外部接点出力の動作モードは「通報動作から通報完了まで」に設定されています。（☞設定編）

通報が完了したことを確認する（応答確認機能）

通報先の相手の方が電話を受けたときに、㊍ ① ⊞を押すことによって、SL-11号BOXに通報完了確認の信号を送ることができます（音声通報時の通報完了判定（☞設定編）を「プッシュ信号受信で完了判定」に設定した場合）。
通報先が留守番電話などで応答した場合は、通報完了確認の信号が送られてこないので、通報が完了したことにはなりません。

●お買い求め時は、音声通報時の通報完了判定は「通常の完了判定」に設定されています。（☞設定編）

便利な機能のご紹介

電池切れになると通報する（電池切れ通報機能）

SL-11号BOXに付属品の電池パック（☞P29）を取り付けているときには、電池パックの寿命などで通電中に電池パックの電圧が一定より下がると、あらかじめ登録してある通報先に電池パックが寿命であることを通報することができます。（☞P79）
また、停電中に電池パックの電圧が一定より下がったときは、あらかじめ登録してある通報先に通報することができます。（☞P77）

●お買い求め時は、電池切れ通報は「通報する」に設定されています。（☞設定編）

 お知らせ

●電池パックを取り付けていない場合は、電池切れ通報は行われません。

ペンダントが電池切れになると通報する（ペンダント電池切れ通報）

ペンダントの電池の電圧が一定より下がると、あらかじめ登録してある通報先に電池切れであることを通報することができます。（☞P61）

●お買い求め時は、ペンダント電池切れ通報は「通報する」に設定されています。（☞設定編）

録音したメッセージで通報する（録音音声メッセージ送出機能）

SL-11号BOXに接続した電話機を使って、通報音声メッセージを録音し、通報するときにそのメッセージを流すことができます。非常を押しての通報、相談を押しての通報、ペンダントによる通報、センサによる通報、リモートスイッチS2による通報で、それぞれ1つずつの録音音声メッセージを設定できます。（☞設定編）

●お買い求め時は、通報音声メッセージは「緊急通報」などの音声合成メッセージに設定されています。（☞設定編）

かかってきた電話に自動応答する（着信自動応答機能）

かかってきた電話に自動的に応答することができます。自動的に応答すると、「ただいま留守です。後ほどおかけください」というメッセージが流れます。
このとき、相手の方の声がスピーカから聞こえ、こちらの声や音が相手の方に聞こえます。着信自動応答のハンドフリー通話時間（☞設定編）で設定されている時間が経過すると、自動的に電話が切れます。設定されている時間が経過する前に電話を切るには、［とめる］を押します。

●お買い求め時は、着信自動応答は「応答可（応答メッセージあり）」に設定されています。（☞設定編）
［応答］を押して電話に出ることもできます。（☞P37）

ワンポイント

●**着信自動応答の暗証番号認証設定について**
テレコントロール機能の有無（☞設定編）を「テレコントロールあり」に設定し、着信自動応答の暗証番号認証（☞設定編）を「暗証番号認証なし」に設定すると、応答メッセージのあと、ハンドフリー通話の状態でテレコントロールが可能になります。
「暗証番号認証あり」に設定すると、応答メッセージのあと、スピーカ受話（マイクオフ）の状態で暗証番号入力待ちとなります。
・ 電話をかけてきた相手の方が暗証番号と㊟を入力すると、ハンドフリー通話になります。「テレコントロールあり」に設定しているときは、ハンドフリー通話の状態でテレコントロールが可能になります。
・ 暗証番号を間違えたときは、「暗証番号をどうぞ」という音声案内がスピーカからと相手の方の両方に流れ、暗証番号と㊟の入力待ちになります。暗証番号を3回間違えると、自動的に電話が切れます。
お買い求め時は、「テレコントロールあり」、「暗証番号認証なし」に設定されています。

お知らせ

●着信自動応答したあとのハンドフリー通話中に緊急通報が行われると「緊急通報のため電話を切ります。緊急通報のため電話を切ります」という切断メッセージがスピーカからとお話し中の相手の方の両方に流れ、通話が切れます。このあと、SL-11号BOXが緊急通報を行います。

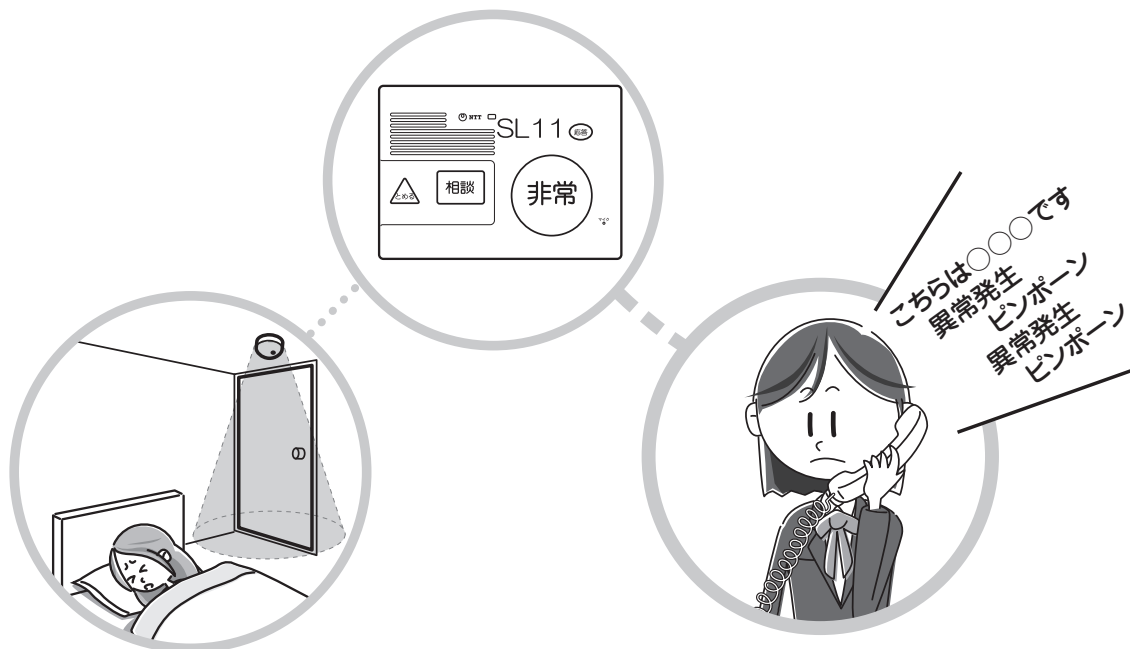
●設定により、次のようなことができます。
・相手の方からの操作により、テレコントロールを行う（☞P48、設定編）
・着信自動応答の遅延時間を設定する（☞設定編）
・自動応答してからのハンドフリー通話時間を設定する（☞設定編）

便利な機能のご紹介

定時通報機能

ご使用のSL-11号BOXや電話回線に異常がないことを確認するために、あらかじめ設定した間隔ごとに、自動的に通報先への定時通報を実施することができます。
設定した時刻に定時通報が行われなかったときには、SL-11号BOXや電話回線に異常が発生したことがわかります。
定時通報を実施することをお勧めいたします。

生活周期異常通報機能（見守り機能）

ドアやトイレなどに取り付けたセンサを通じて、一定時間以上センサの起動がない場合に通報する機能です。
たとえば、24時間の間に一度もトイレやお部屋への出入りがなかったときには、通報先で異変を察知できます。

ワンポイント

●センサの設定(☞設定編)で、センサ1モードを「外出／帰宅スイッチ」に設定し、センサ2モード～センサ4モードを、「定時通報連動」または、「生活周期異常通報連動」に設定された場合、外出時は、センサの検出を停止することができます。

常夜灯

SL-11号BOXの非常ランプと相談ランプは、夜間や明かりのない暗い場所でもボタンの場所がわかるように、常夜灯として弱い光で常時点灯させることができます。

 お知らせ

●緊急通報中や相談電話をしているときは、非常ランプや相談ランプが点滅、点灯します。このとき、常夜灯は消灯します。

通報先の電話機から設定するには（テレコントロール機能）

通報先の電話機から、SL-11号BOXのハンドフリー通話時間を延長したり、マイクのオン／オフを切り替えるなどの遠隔操作（テレコントロール）をすることができます。SL-11号BOXに着信自動応答が設定されている場合は、外からSL-11号BOXに電話をかけてテレコントロールを行うことができます。

●お買い求め時は、着信自動応答は「応答可（応答メッセージあり）」、着信自動応答の遅延時間は「90秒」に設定されています。

テレコントロールは、操作内容に対応したダイヤルボタンを押し、プッシュ信号を送ることによって行います。

●お買い求め時は、テレコントロール機能の有無は「テレコントロールあり」に設定されています。（☞設定編）

便利な機能

通報先の電話機から設定するには（テレコントロール機能）

外からテレコントロールを行う

❶ SL-11号BOXからかかってきた通報の電話を受けます。
SL-11号BOXの着信自動応答が設定されている場合は、外からSL-11号BOXに電話をかけるとSL-11号BOXが自動応答します。

❷ 次の操作を行います。
操作は、ハンドフリー通話時間（お買い求め時は3分）以内に行ってください。

○：テレコントロール可　×：テレコントロール不可

操作内容	ダイヤルボタン	着信に自動応答したとき	通報時
マイクをオンにして、ハンドフリー通話へ切り替える	④㊀	○	○
マイクをオフにする	⑤㊀	○	○
ハンドフリー通話時間を延長する（無限にする）	⑥㊀	○	○
回転灯などの動作の制御（メーク）	⑦㊀	○	○
回転灯などの動作の制御（ブレーク）	⑧㊀	○	○
通報音声メッセージを再生する	②①㊀	×	○
スピーカをオフにして、マイクの感度をアップする	④①㊀	○	○
SL-11号BOXへのハンドフリー通話切り替え	⓪⓪㊀	○	○
HF1端子に接続したハンドフリーボックスへのハンドフリー通話切り替え	①⓪㊀	○	○
HF2端子に接続したハンドフリーボックスへのハンドフリー通話切り替え	①②㊀	○	○
SL-11号BOXとハンドフリーボックスへの一斉呼出（マイクはオフ）	⑦⓪㊀	○	○
接点出力2の動作	⑦①㊀	○	○
接点出力2の復旧	⑧①㊀	○	○

○：テレコントロール可　×：テレコントロール不可

操作内容	ダイヤルボタン	着信に自動応答したとき	通報時
通報完了として電話を切る （他の通報先には通報しない）	⑨㊟	○	○
通報未完了とする	③①㊟	×	○

応答確認音「ピー、ピー」または通話終了音「ピー」が聞こえます。

ワンポイント

●**テレコントロールができる電話機は**
必ずプッシュ式（PB）またはプッシュ信号を送ることができる電話機をご利用ください。ダイヤル回線に接続されている電話機でも、プッシュ信号を送る機能があれば、テレコントロールを行うことができます。

●**着信自動応答の暗証番号認証設定について**（☞P45）

お知らせ

●以下の通報は、通報先に電話がつながったときにハンドフリー通話はできません。また、約30秒間の無音のあとに通話が切れますので、手順2の操作は電話がつながったあと、早めに行ってください。

■ 停電通報（☞P76）
■ 復電通報（☞P78）
■ 定時通報（☞設定編）
■ 生活周期異常通報（☞設定編）
■ 外出／帰宅通報（☞設定編）

●周囲の雑音により正常に動作しないことがあります。

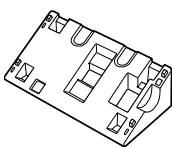
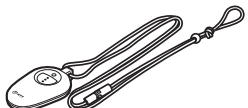
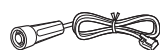
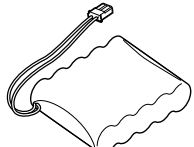
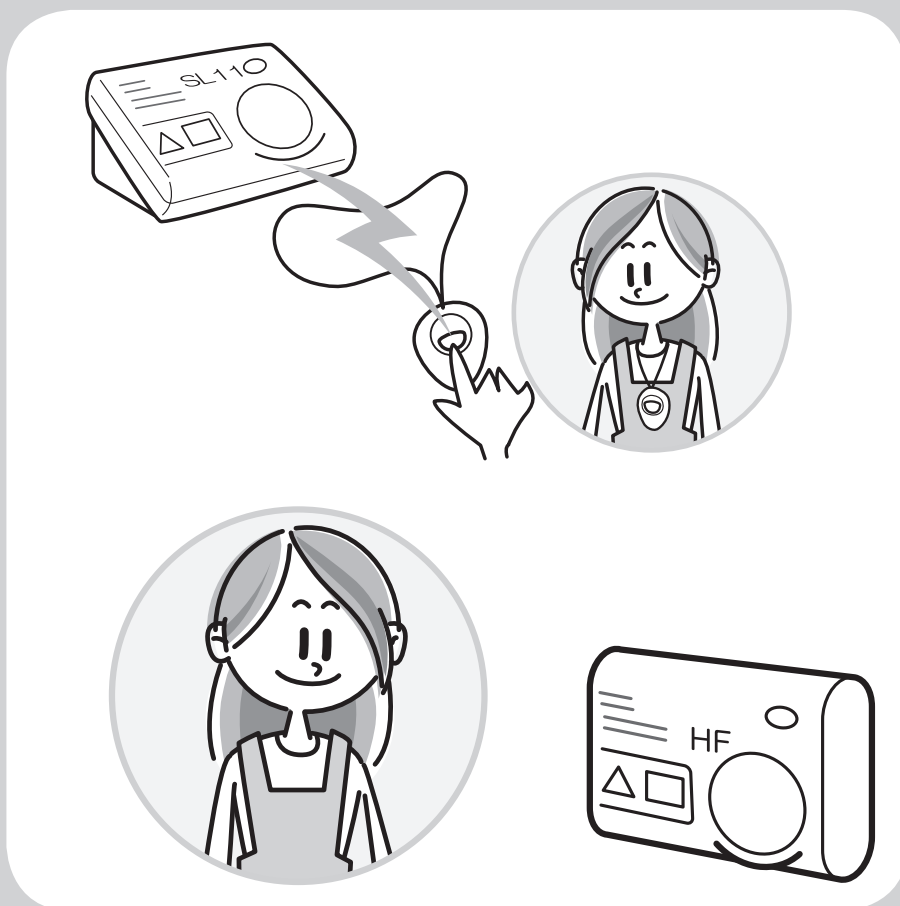
●テレコントロールをしているときに、SL-11号BOXやハンドフリーボックスのスピーカからプッシュ信号が聞こえることがあります。

●携帯電話からテレコントロールを行う場合、回線状況により正常に動作しないことがあります。

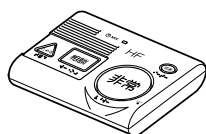
●テレコントロール操作を連続して行う場合、早く操作を行うと受け付けないことがあります。応答確認音「ピー、ピー」確認後、数秒待ってから次の操作を行ってください。

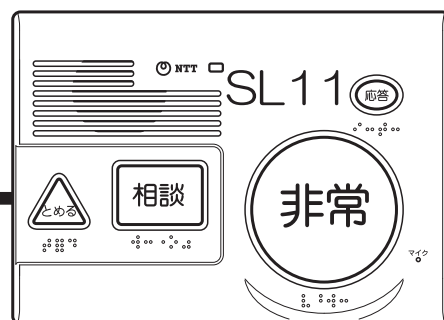
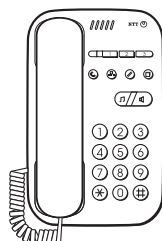
お願い

●テレコントロール機能をご利用になるときは、SL-11号BOXに留守番機能付き電話機などを接続する場合でも、電話がかかってきたときにSL-11号BOXが応答するように、SL-11号BOXの着信自動応答の遅延時間を、留守番機能付き電話機などが着信に自動応答するまでの時間よりも短い時間に設定してください。（☞設定編）
この場合、留守番機能付き電話機などの留守番機能は利用できません。

オプションを利用する

SL-11号BOXに接続できるオプションをご紹介します。また、ペンダントを使って緊急通報を行う方法を説明します。

オプションのご紹介

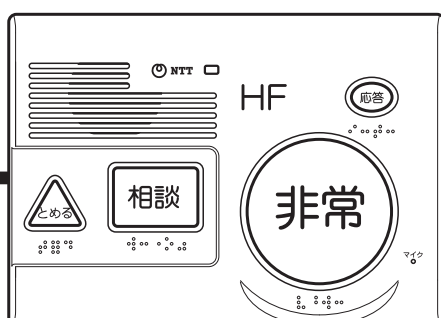
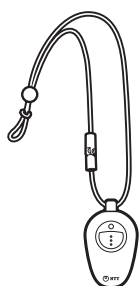
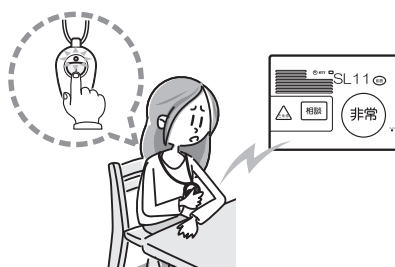
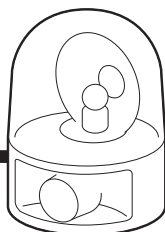
SL-11号BOXには、より便利にお使いいただくためのオプションが用意されています。

スタンド（☞P54）	小電力型ワイヤレスリモートスイッチ5送信機（☞P56）	リモートスイッチS2（☞P59）	電池パック（デンチパック-106）（☞P59）
	ペンダント		
SL-10号ハンドフリーボックス（☞P63）			

SL-11号BOX

お手持ちの電話機

センサ端子には、市販のセンサ（火災センサ／ガスもれセンサ、生活リズムセンサなど最大4台）、またはリモートスイッチS2を接続してご利用いただけます。（☞P58、59）

リモートスイッチS2のスイッチを押すだけで、通報できます。（☞P59）

お知らせ

●SL-11号BOXで使用できるセンサや外部出力機器の詳細は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお問い合わせください。

SL-10号ハンドフリーボックスのボタンを押して緊急通報をしたり、相談電話をかけることができます。（☞P64）

いつも身につけていられるペンダント型なので、SL-11号BOXから離れたところにいるときでも安心です。（☞P56）

EX端子には、市販の回転灯などの外部出力機器を最大2台接続してご利用いただけます。（☞P59）

お知らせ

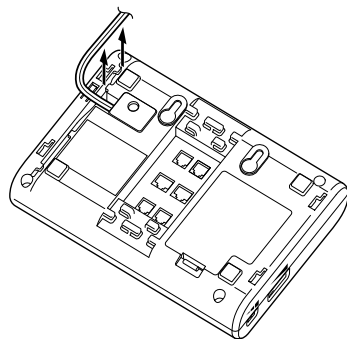
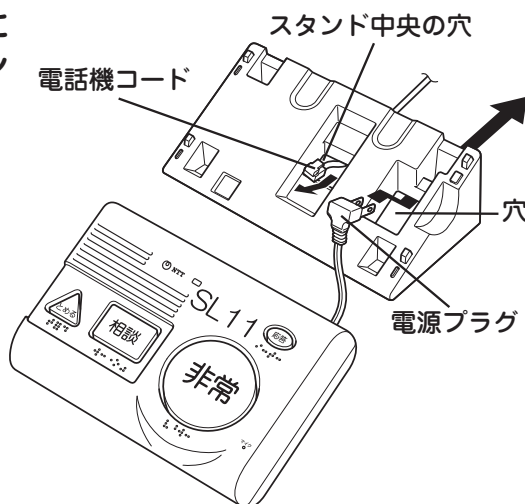
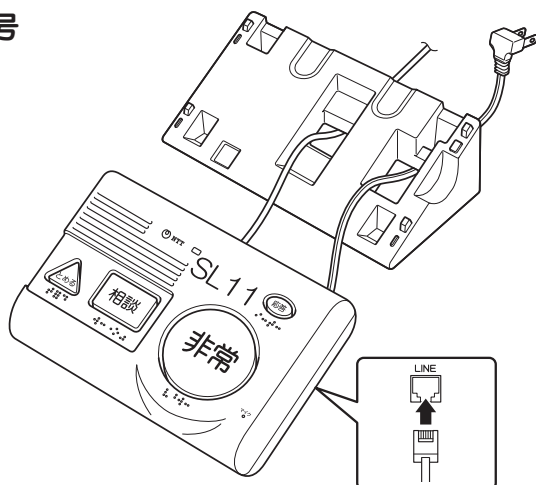
- SL-10号ハンドフリーボックスは最大2台接続できます。
- ペンダントは最大16台接続できます。

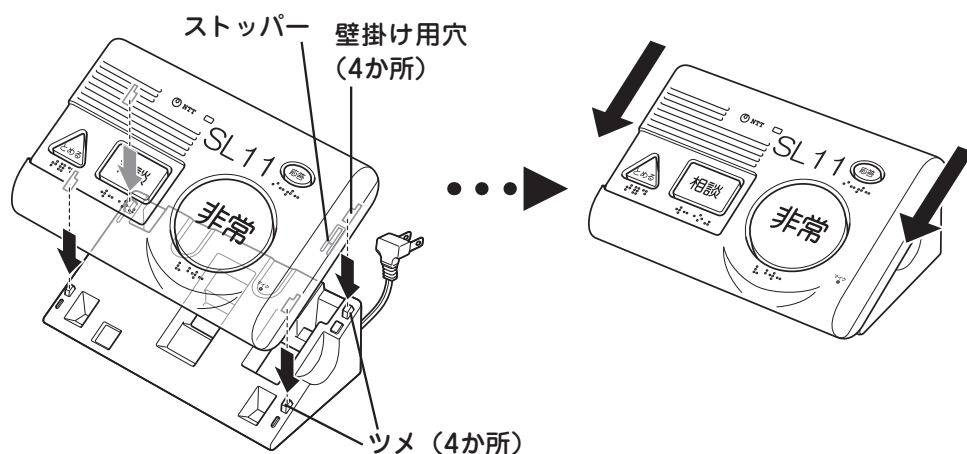
スタンドに立てて使うには

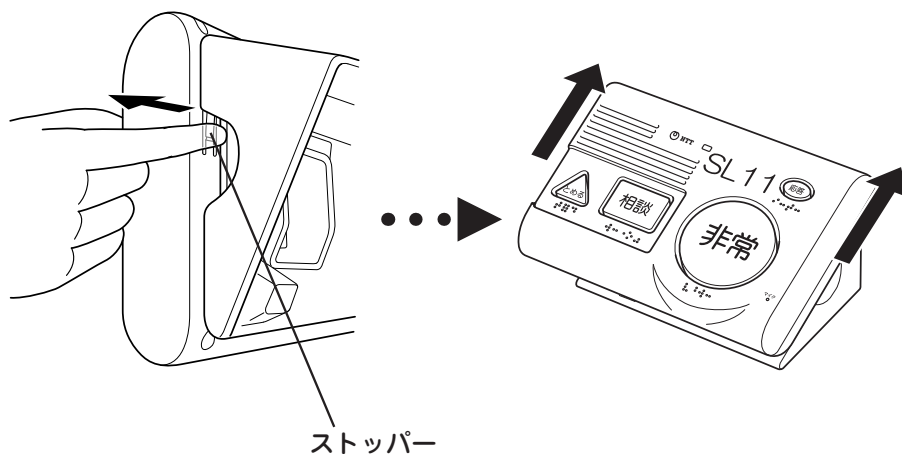
SL-11号BOX、SL-10号ハンドフリーボックスは、オプションのスタンドを取り付けることができます。

スタンドを取り付ける

（例）SL-11号BOXにスタンドを取り付ける場合

❶ **電源コードを電源コード押さえに差し込んでいる場合は、電源コード押さえから外します。**

❷ **電話機コードなどをスタンド中央の穴に通し、電源コードの電源プラグをスタンドの穴に通します。**

❸ **電話機コードのコネクタをSL-11号BOXのLINE端子に差し込みます。**

スタンドのツメ（4か所）をSL-11号BOXの底板の穴（壁掛け用穴）に差し込み、SL-11号BOXを手前にスライドさせます。

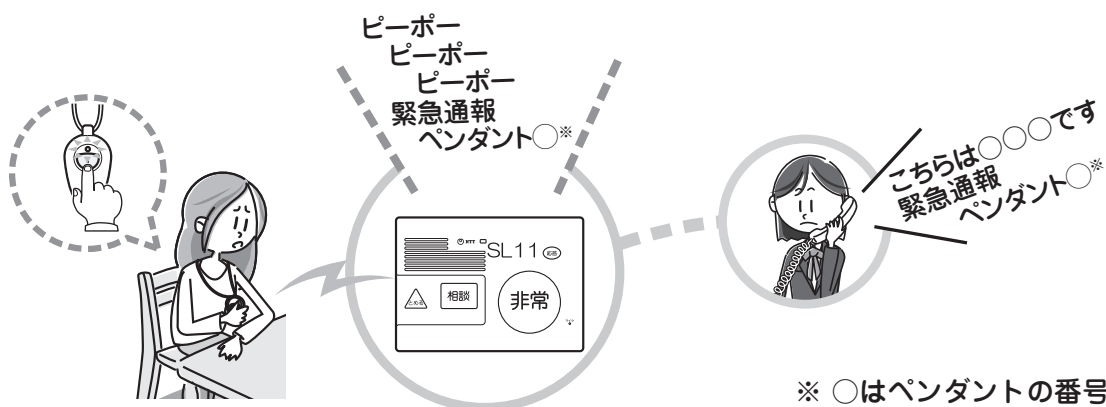
このときスタンドのツメで底板のストッパーを押し込まないでください。

スタンドを取り外す

ストッパーを押しながらSL-11号BOXを斜め上にスライドさせます。

ペンダントを使うには

通報する

SL-11号BOXから離れたところにいるときでも、登録してある通報先に通報できます。ただし、ペンダントでお話しすることはできません。

1 ペンダントの通報ボタンを長めに押します（約0.5秒以上）。

ランプが点滅し、SL-11号BOXにあらかじめ登録してある通報先に通報します。

※ ○はペンダントの番号

お知らせ

- 通報ボタンはランプが点滅するまで長めに（約0.5秒以上）押してください。
- ペンダントの電池の残量が少なくなると、ペンダントの通報ボタンを押してもランプが点滅しなくなります。電池を交換してください。（☞P60）
- SL-11号BOX（ワイヤレスセット）にはペンダントが１個付属しています。ペンダントを増設する場合は、当社のサービス取扱所までご連絡ください。
- SL-11号BOXにペンダントは付属していません。SL-11号BOXにペンダントを接続する場合は、当社のサービス取扱所までご連絡ください。
- 誤報対策のため、押している時間が0.5秒未満の場合は通報しません。
- 1週間に1回の通報を行った場合、コイン形リチウム電池の電池寿命は、おおむね2年です。電池寿命は常温でご利用いただいたときの目安であり保証値ではありません。
  電池は、電池の製造日から使用開始までの期間や、ご利用いただく環境（周囲温度）や通報を行う回数等によっては仕様（☞P88）に記載の電池寿命よりも短くなる場合があります。

お願い

- ペンダントからの電波が届く範囲は、SL-11号BOXから50 m程度（見通し距離）です。周囲の環境（壁、大型冷蔵庫など）によっては、ペンダントの使用範囲が狭くなることがあります。あらかじめ通報テスト（☞P57）を行い、通報できる範囲を確かめてください。

間違えて通報ボタンを押したときは

❶ SL-11号BOXの とめる を押します。

通報が停止します。

通報テストをする

❶ ペンダントの通報ボタンを長めに押します（約0.5秒以上）。

❷ ペンダントのランプが点滅し、SL-11号BOXから警報音が鳴ることを確認します。

❸ SL-11号BOXの とめる を押します。

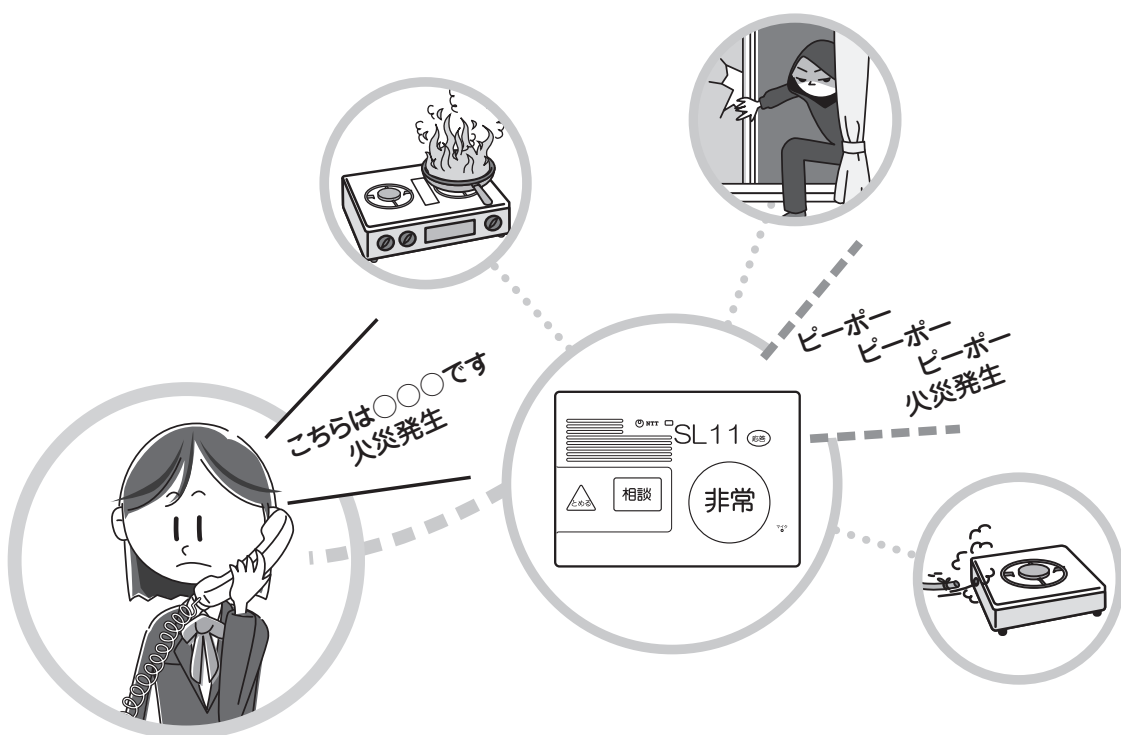
お願い

●ペンダントのランプが点滅し、SL-11号BOXから警報音が鳴ることを確認したら、SL-11号BOXの とめる を押してください。 とめる を押さない場合は、通報が行われてしまいます。

●1週間に1回の割合で定期的に通報テストを行い、正常に動作することを確認してください。通報テストのときに、ペンダントのランプが点滅することを確認してください。

オプションを接続して使うには

各種センサ

SL-11号BOXには、火災センサ、ガスもれセンサ、防犯用センサ、生活リズムセンサなどの市販のセンサを最大4台接続することができます。
センサが異常を感知すると、SL-11号BOXが警報音を鳴らし、あらかじめ登録してある通報先に自動的に通報します。

 お知らせ

●SL-11号BOXで使用できるセンサの詳細は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお問い合わせください。

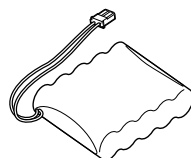
リモートスイッチS2

リモートスイッチS2は、SL-11号BOXのセンサ端子やSL-10号ハンドフリーボックスのリモートスイッチ端子に接続することができます。
リモートスイッチS2のスイッチを押すだけで、通報できます。

お知らせ

●SL-10号ハンドフリーボックスのリモートスイッチ端子に接続したリモートスイッチS2のスイッチを押したときは、SL-10号ハンドフリーボックスの[非常]ボタンを押した場合と同じ動作をします。

電池パック（デンチパック-106）

交換用の電池パックです。

外部出力機器

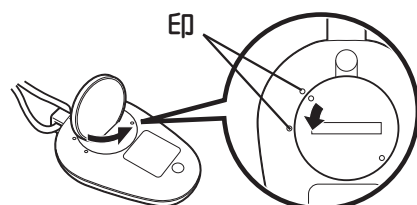
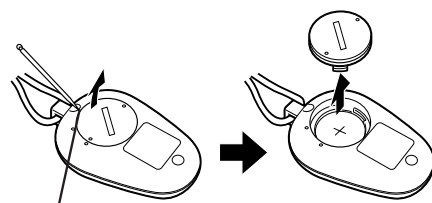
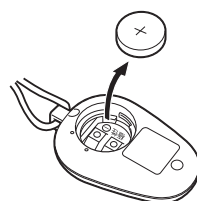
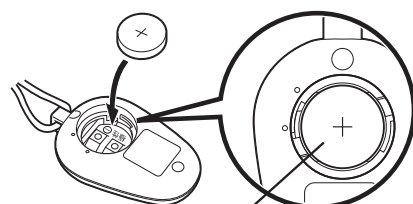
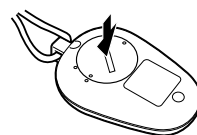
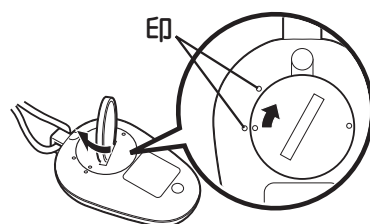
SL-11号BOXのEX端子に市販の回転灯などの外部出力機器を最大2台接続して、電話回線を介さずに緊急事態を通知することができます。

お知らせ

●SL-11号BOXで使用できる外部出力機器の詳細は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお問い合わせください。

ペンダントの電池を交換するには

ペンダントに内蔵されているコイン形リチウム電池は消耗品です。電池の残量が少なくなると、SL-11号BOXの電源ランプが点滅し、あらかじめ登録してある通報先へ通報を行います。また、通報ボタンを押したときにランプが点滅しません。電池は、電池残量がある場合でも2年ごとに交換してください。
コイン形リチウム電池のご購入については、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお問い合わせください。

❶ 電池カバーの溝にコインなどを当て、ペンダントの印と電池カバーの印が合うまで矢印の方向に回します。

❷ 電池カバー取り外し用溝に先の細いものを引っかけ、持ち上げるようにして電池カバーを外します。

❸ 古くなったコイン形リチウム電池を取り出します。

❹ 新しいコイン形リチウム電池を、プラス（+）を上に向けてセットします。

❺ 電池カバーの印とペンダントの印を合わせ、電池カバーをペンダントに押し込みます。

❻ 電池カバーの溝にコインなどを当て、電池カバーの印とペンダントの印が合うまで押し込みながら矢印の方向に回し、電池カバーを取り付けます。電池カバーに浮きがなく、完全に閉まっていることを確認してください。

ワンポイント

●**電池の残量が少なくなると**
ペンダント電池切れ通報を「通報する」に設定していると、あらかじめ登録してある通報先へ通報を行います。
お買い求め時は、「通報する」に設定されています。

① SL-11号BOXのスピーカから「ピーポー、ピーポー、ピーポー、ペンダント○電池切れです」という警報音と警報メッセージ（○はペンダントの番号）が流れ、電源ランプが点滅します。
② 通報先に電話がつながると、「こちらは（電話番号）です。※ ペンダント○電池切れです。ペンダント○電池切れです」という通報メッセージ（○はペンダントの番号）がスピーカからと相手の方の両方に流れます。通報が完了すると、電源ランプが点灯します。
※こちらの電話番号の登録が必要です。（☞設定編）

・ 1か所目の通報先に電話がつながらなかったときは（☞P32）
・ 手順②で通報先に電話がつながったときにSL-11号BOXの応答ランプが点灯し、SL-11号BOXでハンドフリー通話ができます。
・ 手順②の通報メッセージは3回流れます。（お買い求め時の設定）

お知らせ

●電池の交換は、あらかじめ静電気を除去してから行ってください。

●電池の交換は、湿気の多い場所では行わないでください。湿気がペンダントの内部に入ると電池の液もれが発生しやすくなります。

●１年ごとに、電池の液もれがないか点検してください。

STOP お願い

●コイン形リチウム電池は、電池残量がある場合でも2年ごとに交換してください。2年以上装着したままでご使用になると、液もれが発生するおそれがあります。

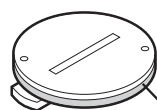
●電池カバーを取り外すときに、防水パッキンに傷を付けないようにしてください。傷が付くと簡易生活防水機能が維持できません。

●電池カバーの防水パッキンが、ねじれたり、切れたりしている場合は、ペンダントの中に水などが入っている可能性がありますので、当社のサービス取扱所へご連絡ください。

●防水パッキンにゴミなどが付着しないようにしてください。パッキンの接触面に微細なゴミ（髪の毛1本、砂粒1個、微細な繊維など）がわずかでも挟まると、本体内部に浸水する原因となることがあります。微細なゴミが付着している場合は、乾いた柔らかい清潔な布で拭き取ってください。

●使用推奨期限を過ぎた電池は使用しないでください。使用推奨期限を過ぎた電池を使用すると、使用中に液もれが発生するおそれがあります。

●電池を交換するときは、電池の液もれの跡がないかを確認してください。液もれの跡がある場合は、内部の点検が必要です。当社のサービス取扱所へご連絡ください。

（次ページへつづく）

ペンダントの電池を交換するには

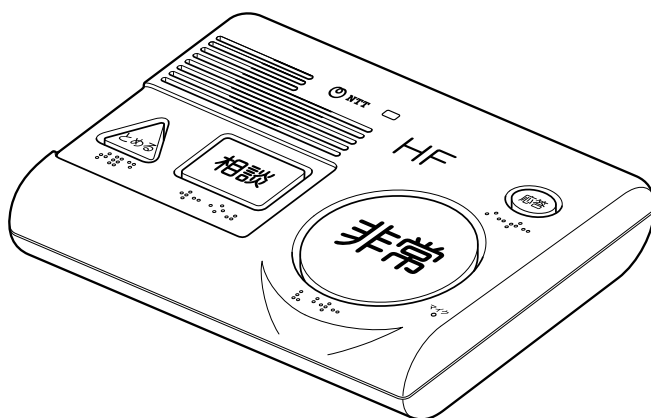
 お知らせ

- お買い求め時にペンダントに付属されている電池は、工場出荷時に付属しておりますので、仕様（☞P88）に記載されている電池寿命よりも短くなることがあります。
- 使用済みの電池は、他のゴミと分別するなど、適切に廃棄処理してください。

お願い

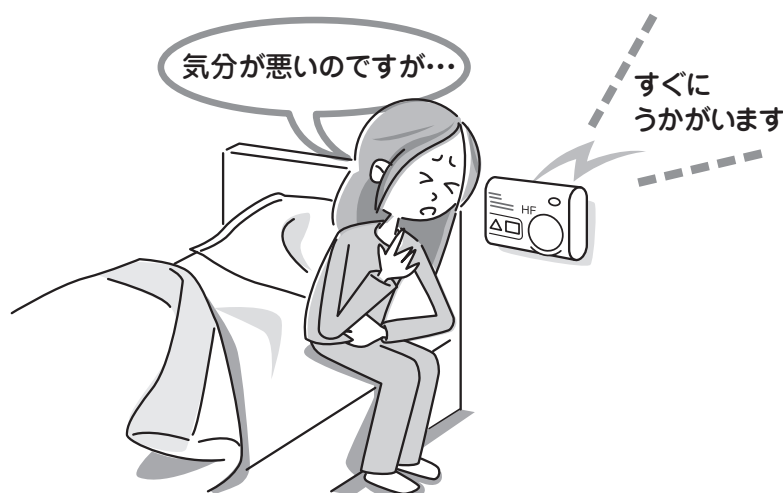
- 電池を交換したときは、ペンダントが正常に動作することを必ず確認してください。
  ① SL-11号BOXの とめる を押しながら 非常 と 応答 を3秒以上押します。
  電源ランプ、非常ランプ、応答ランプ、相談ランプが点滅します。ペンダントの電池確認モードになります。
  ② ペンダントの通報ボタンを長めに押します（約0.5秒以上）。
  ペンダントのランプが点滅することを確認します。通報は行われません。
  ③ とめる を押します。
  ペンダントの電池確認モードが解除されます。
- 電池を交換したときは、タグ（電池交換時期表示札）（☞P26）に、電池を交換した年月日を記入してください。

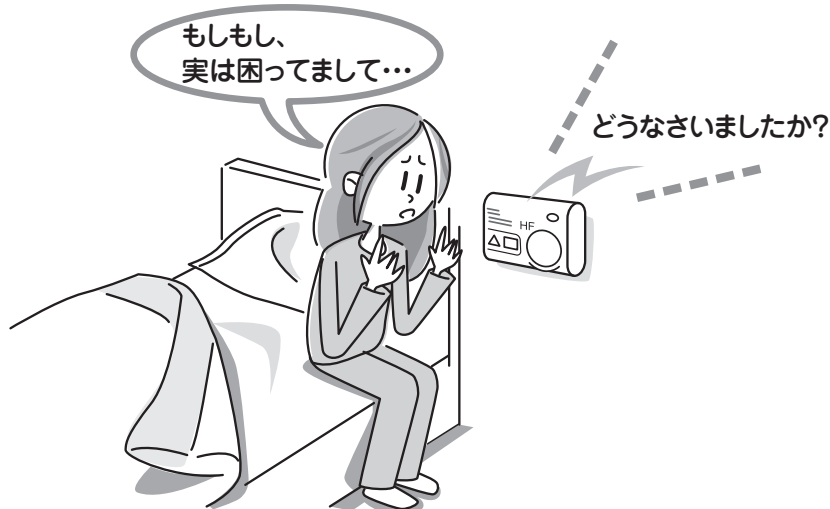
SL-10号ハンドフリーボックス（オプション）

ここでは、SL-10号ハンドフリーボックスをお使いになる前に知っておいていただきたいことをまとめています。

SL-10号ハンドフリーボックスでできること

SL-10号ハンドフリーボックスは、SL-11号BOXと同じように簡単な操作で緊急通報や相談電話がかけられます。ハンドフリーボックスにリモートスイッチS2を接続しているときは、お手もとのスイッチを押して緊急通報を行うこともできます。
SL-11号BOXと同じように、かかってきた電話が受けられます。

■ 緊急通報（☞P68）

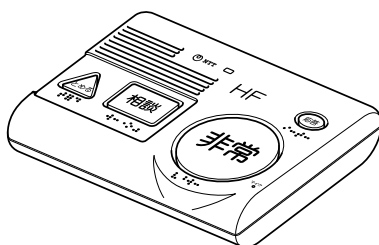
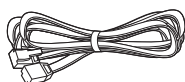
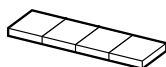
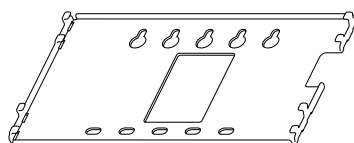
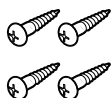
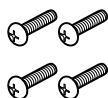
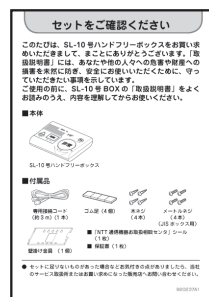
非常を押すだけで、通報先に電話がつながります。

■ 相談電話（☞P70）

相談を押すだけで、登録してある相談先に電話がかけられます。

セットの確認

次のものがそろっているか、お確かめください。

■本体

SL-10号ハンドフリーボックス

■付属品

専用接続コード
（約3 m）（1本）

ゴム足（4個）

壁掛け金具（1個）

壁掛け用木ネジ
（4本）

メートルネジ（4本）
（JISボックス用）

セットをご確認ください

このたびは、SL-10号ハンドフリーボックスをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。「取扱説明書」には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
ご使用の前に、SL-10号BOXの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。

■本体

SL-10号ハンドフリーボックス

■付属品

専用接続コード（約3 m）（1本）
ゴム足（4個）
木ネジ（4本）
メートルネジ（4本）（JISボックス用）
壁掛け金具（1個）
■「NTT通信機器お取扱相談センタ」シール（1枚）
■ 保証書（1枚）

● セットに足りないものがあった場合などお気付きの点がありましたら、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお問い合わせください。

920237A1

セットをご確認ください（1枚）

■「NTT通信機器お取扱相談センタ」シール（1枚）
■保証書（1枚）

● セットに足りないものがあった場合などお気付きの点がありましたら、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお問い合わせください。

ワンポイント

●壁掛けにして使うには
SL-11号BOXと同じように壁に掛けて使用することができます。（☞P27）

●横置きにして使うには
SL-11号BOXと同じように横置きにして使用することができます。（☞P28）

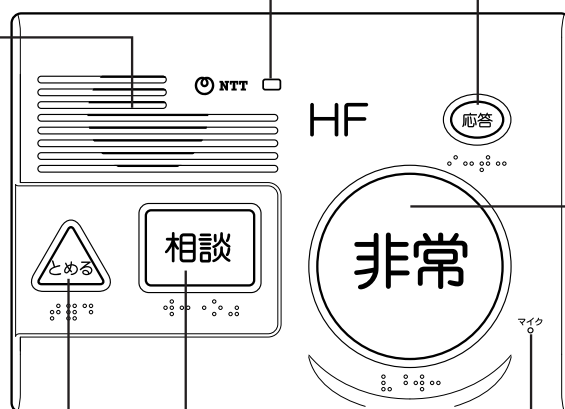
●スタンドを取り付けて使うには
SL-11号BOXと同じようにスタンドを取り付けて使用することができます。（☞P54）

各部の名前とはたらき

■前面

電源ランプ
電源が入っているときは点灯します。

応答ボタン
電話を受けるときに押します。(☞P72)

スピーカ

非常ボタン
通報先に通報するときに押します。(☞P68)

とめるボタン
間違えて非常ボタンや相談ボタンを押したときに押すと、通報や呼び出しが停止します。
ハンドフリー通話中に押すと通話が切れます。

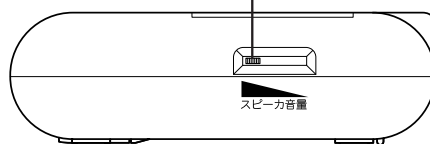
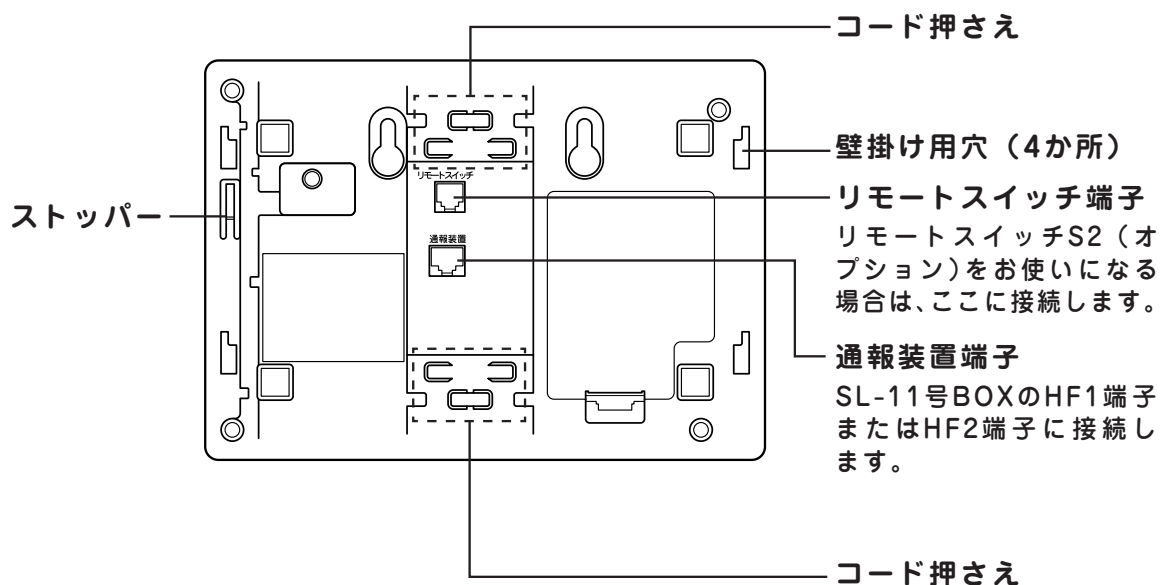
相談ボタン
相談先にかけるときに押します。(☞P70)

マイク
お話しするときは、ここに向かって話しかけます。

■左側面

スピーカ音量つまみ
相手の方の声の音量や電話の呼出音の大きさを調節するときに使います。(☞P73)

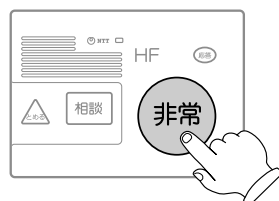
■底面

コード押さえ
壁掛け用穴（4か所）
リモートスイッチ端子
リモートスイッチS2（オプション）をお使いになる場合は、ここに接続します。
ストッパー
リモートスイッチ
通報装置
通報装置端子
SL-11号BOXのHF1端子またはHF2端子に接続します。
コード押さえ

SL-10号ハンドフリーボックスの使いかた

SL-11号BOXから離れた場所にいるときでも、SL-10号ハンドフリーボックスから緊急通報や相談電話がかけられます。SL-10号ハンドフリーボックスにリモートスイッチS2を接続しているときは、お手もとのスイッチを押して緊急通報を行うこともできます。
SL-11号BOXと同じように、かかってきた電話が受けられます。

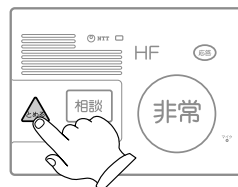
SL-10号ハンドフリーボックスで緊急通報をする

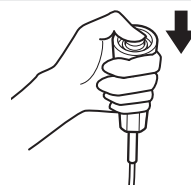
非常を押します。

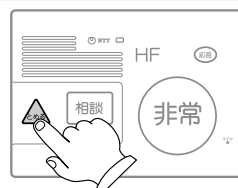
スピーカから「ピーポー、ピーポー、ピーポー、緊急通報。ハンドフリーボックス○」という警報音と警報メッセージ（○はハンドフリーボックスの番号）が流れます。通報先に電話がつながると「こちらは（電話番号）です。緊急通報。ハンドフリーボックス○。緊急通報。ハンドフリーボックス○。ピー、ピー」という通報メッセージ（○はハンドフリーボックスの番号）がスピーカからと相手の方の両方に流れます。

② マイクに向かってお話しします。

通報メッセージが終わったあとにお話しください。

③ お話しが終わったら、とめるを押します。

通報を終了します。

ワンポイント

●**リモートスイッチS2で緊急通報をするには**
スイッチを押します。通報先に電話がつながったら、マイクに向かってお話しします。

ワンポイント

●**間違えて[非常]を押したときは**
[とめる]を押します。通報が停止します。
SL-11号BOXの[とめる]を押しても通報を停止します。

●**1か所目の通報先に電話がつながらなかったときは（☞P32）**

●**録音したメッセージで通報するには（☞設定編）**
通報メッセージを録音したメッセージに変更することもできます。

●**通報が完了したことを確認するには**
音声通報時の通報完了判定（☞設定編）を「プッシュ信号受信で完了判定」に設定します。
・ 通報先の相手の方がプッシュ式（PB）電話機で㊍ ① ⊕を押すことによって、SL-11号BOXに通報完了確認の信号を送ることができます。お買い求め時は「通常の完了判定」に設定されています。「プッシュ信号受信で完了判定」に設定すると、通報先が留守番電話などで応答した場合は、通報完了確認の信号が送られてこないので、通報が完了したことにはなりません。
・ 手順1の通報メッセージは、「こちらは（電話番号）です。緊急通報。ハンドフリーボックス○。緊急通報。ハンドフリーボックス○。㊍①⊕を押してください」になります。
・ 通報方式（☞設定編）をデータ通報（SL3手順＋音声通報［合成音声］）またはデータ通報（SL5手順＋音声通報［合成音声］）に設定したときは、手順１の通報メッセージは「こちらは（電話番号）です。緊急通報。ハンドフリーボックス○。緊急通報。ハンドフリーボックス○」（○はハンドフリーボックスの番号）になります。

お知らせ

●こちらの電話番号（☞設定編）を登録していない場合は、手順1で通報先に電話がつながると「緊急通報。ハンドフリーボックス○。緊急通報。ハンドフリーボックス○」（○はハンドフリーボックスの番号）という通報メッセージが流れます。

●手順1の通報メッセージは3回流れます。（お買い求め時の設定）

●手順2のハンドフリー通話は約3分で切れます。通報先1への通報を終了し、次の通報先へ通報します。ハンドフリー通話時間を変更することもできます。（☞設定編）

●手順3で[とめる]を押して通話を終了したときは、通報先（☞設定編）が複数登録されていて、通報終了タイミング（☞設定編）が「全宛先に通報して終了する」に設定されている場合でもすべての通報を終了します。

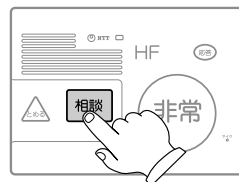
●手順3で[とめる]を押さないで相手の方が電話を切った場合は、通報先1への通報を終了し、次の通報先へ通報します。

●[非常]や[とめる]を押したときに、キータッチ音は鳴りません。

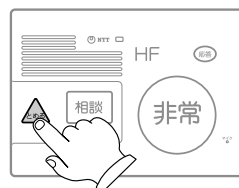
SL-10号ハンドフリーボックスの使いかた

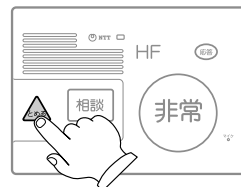
SL-10号ハンドフリーボックスで相談電話をかける

❶ 相談を押します。

相談先に電話がつながると、「ピー、ピー」という音がスピーカからと相手の方の両方に流れます。

❷ マイクに向かってお話しします。

❸ お話しが終わったら、とめるを押します。

相談電話を終了します。

ワンポイント

●**間違えて[相談]を押したときは**
[とめる]を押します。呼び出しが停止します。
SL-11号BOXの[とめる]を押しても呼び出しが停止します。

●**1か所目の通報先に電話がつながらなかったときは****（☞P32）**

●**録音したメッセージで通報するには****（☞設定編）**
通報メッセージを録音したメッセージに変更することもできます。

お知らせ

●手順2のハンドフリー通話は約3分で切れます。通報先1への通報を終了し、次の通報先へ通報します。ハンドフリー通話時間を変更することもできます。（☞設定編）

●手順3で[とめる]を押して通話を終了したときは、通報先（☞設定編）が複数登録されていて、通報終了タイミング（☞設定編）が「全宛先に通報して終了する」に設定されている場合でもすべての通報を終了します。

●手順3で[とめる]を押さないで相手の方が電話を切った場合は、通報先1への通報を終了し、次の通報先へ通報します。

●[相談]や[とめる]を押したときに、キータッチ音は鳴りません。

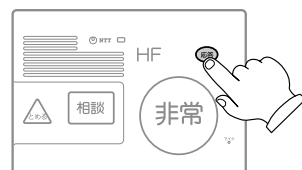
SL-10号ハンドフリーボックスの使いかた

呼出音が鳴ったときに電話に出る

電話がかかってきたときは、SL-10号ハンドフリーボックスのスピーカとマイクを使って相手の方とお話しすることができます。

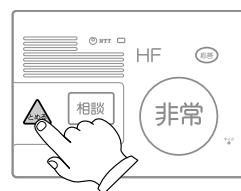
1 「プルルル…プルルル…」という呼出音が鳴ります。

2 応答を押します。

相手の方とつながります。

3 マイクに向かってお話しします。

相手の方の声はスピーカから聞こえます。

4 お話しが終わったら、とめるを押します。

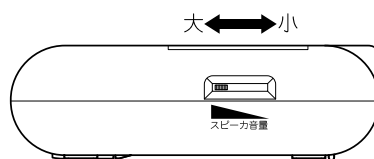
とめるを押すか、相手の方が電話を切ると、通話が終了します。
応答を押しても通話が終了します。

お知らせ

● 応答やとめるを押したときに、キータッチ音は鳴りません。

声や呼出音を調節するには

相手の方の声と呼出音の音量を調節する

相手の方の声などが聞き取りにくいときや、電話の呼出音の大きさを変えたいときには、スピーカ音量を調節します。

スピーカ音量 つまみを動かします。

お知らせ

●スピーカ音量を調節すると、警報音や警報メッセージ、警告メッセージ、通報メッセージの音量も変わります。

こんなときには

停電になったときは

電池パックを取り付けていれば、停電のときでも通報したり、電話を受けたりすることができます。
電池パックは、あらかじめ取り付けておいてください。（☞P29）

■ 停電になったとき

停電／復電通報を「通報する」に設定していると、停電になったとき、自動的に通報先に通報を行います。お買い求め時は「通報しない」に設定されています。

1. スピーカから「停電です。停電です。停電です」という警告メッセージが流れます。
2. 停電通報遅延時間（☞設定編）に設定されている時間が経過すると、スピーカから「停電です。停電です。停電です」という警告メッセージが流れ、電源ランプが点滅します。
   お買い求め時は、停電通報遅延時間は「３分」に設定されています。（☞設定編）
3. 通報先に電話がつながると「こちらは（電話番号）です。※ 停電です。停電です」という通報メッセージが相手の方に流れます。
   通報が完了すると、電源ランプが点灯します。
   ※こちらの電話番号の登録が必要です。（☞設定編）

ワンポイント

●1か所目の通報先に電話がつながらなかったときは（☞P32）

お知らせ

●手順3で通報先に電話がつながったときにハンドフリー通話はできません。また、約30秒間の無音のあとに通話が切れます。

●手順3の通報メッセージは3回流れます。（お買い求め時の設定）

●警報音、警報メッセージ、警告メッセージ、通報メッセージがスピーカから流れているときに停電になった場合は、警報音、警報メッセージ、警告メッセージ、通報メッセージの音量が変わることがあります。

●SL-11号BOXに電池パックを取り付けていない場合、停電時には動作しません。

■ 停電中は

電池パックが満充電の状態で停電開始から約6時間以内であれば、通電と同じ状態で1回以上緊急通報が行えます。ただし、オプション機器の接続の有無およびSL-11号BOXやオプション機器の使用状態などによって、通電と同じ状態で緊急通報が行える時間が短くなることがあります。
停電中も、すべての機能をご利用になれます。

●電池パックを取り付けたときや交換したときは、必ず12時間以上充電してください。12時間以上充電する前に停電になった場合は、電池パックで動作しないことがあります。

■ 停電中に電池パックの電圧が一定より下がったときは

電源ランプが点滅をします。電池切れ通報を「通報する」に設定していると、通報先に通報を行います。お買い求め時は、「通報する」に設定されています。

1. スピーカから「ピーポー、ピーポー、ピーポー、本体電池切れです」という警報音と警報メッセージが流れます。
2. 通報先に電話がつながると「こちらは(電話番号)です。※本体電池切れです。本体電池切れです」という通報メッセージがスピーカからと相手の方の両方に流れます。
   通報が完了すると、電源ランプが周期的に2回点灯します。
   ※こちらの電話番号の登録が必要です。(☞設定編)

ワンポイント

●1か所目の通報先に電話がつながらなかったときは(☞P32)

●停電中に電池パックの電池残量がなくなったときは
・SL-11号BOXは動作しません。
・停電が復旧したときに、日付と時刻の設定が2014年1月1日0時0分(お買い求め時の設定)に戻ります。
・日付と時刻以外のシステムデータの設定値は保持されます。

お知らせ

●手順2で通報先に電話がつながったときに応答ランプが点灯し、ハンドフリー通話ができます。

●手順2の通報メッセージは3回流れます。(お買い求め時の設定)

停電になったときは

■ 停電が復旧したとき

停電／復電通報を「通報する」に設定していると、停電が復旧したとき、自動的に通報先に通報を行います。お買い求め時は、「通報しない」に設定されています。

1. 電源ランプが点滅します。

2. 通報先に電話がつながると「こちらは（電話番号）です。※ 停電が復旧しました。停電が復旧しました」という通報メッセージが相手の方に流れます。
通報が完了すると、電源ランプが点灯します。
※こちらの電話番号の登録が必要です。（☞設定編）

ワンポイント

●1か所目の通報先に電話がつながらなかったときは（☞P32）

お知らせ

●停電が復旧したときの通報は、以下の場合に行われます。
・停電になったときの通報（☞P76）に対して通報先が1か所でも応答した場合
・停電中に電池パックの電圧が一定より下がったときの通報（☞P77）に対して通報先が1か所でも応答した場合

●手順2で通報先に電話がつながったときにハンドフリー通話はできません。また、約30秒間の無音のあとに通話が切れます。

●手順2の通報メッセージは3回流れます。（お買い求め時の設定）

●電池パックの電池残量がなくなったあと停電が復旧したときは、必ず12時間以上充電してください。12時間以上充電する前に停電になった場合は、電池パックで動作しないことがあります。

STOP お願い

●電源プラグが正しく差し込まれていないと、平常時に「停電です」というメッセージが流れてしまったり、停電通報が行われてしまうことがあります。電源プラグを正しく差し込み、決して抜かないでください。

■ 電池パックが寿命になったとき

電源ランプが点滅をします。
電池切れ通報を「通報する」に設定していると、電池パックの寿命などで通電中に電池パックの電圧が一定より下がったとき、通報先に通報を行います。お買い求め時は、「通報する」に設定されています。

❶ スピーカから「ピーポー、ピーポー、ピーポー、本体電池切れです」という警報音と警報メッセージが流れます。

❷ 通報先に電話がつながると「こちらは（電話番号）です。※ 本体電池切れです。本体電池切れです」という通報メッセージがスピーカからと相手の方の両方に流れます。
通報が完了すると、電源ランプが周期的に2回点灯します。
※こちらの電話番号の登録が必要です。（☞設定編）

停電になったときは
こんなときには

ワンポイント

● 1か所目の通報先に電話がつながらなかったときは（☞P32）

● 電池パック交換の目安は
電池パックは消耗品です。使用頻度にもよりますが、約2年程度ご使用になれます。

お知らせ

● 手順2で通報先に電話がつながったときに応答ランプが点灯し、ハンドフリー通話ができます。

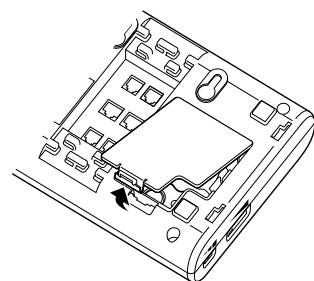
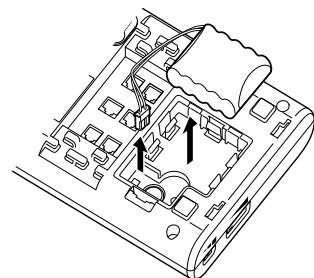
● 手順2の通報メッセージは3回流れます。（お買い求め時の設定）

電池パックを交換するには

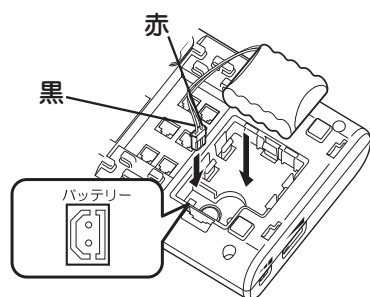
電池パックは停電時動作用の消耗品です。使用頻度にもよりますが、2年程度ご使用になれます。長時間充電しても、動作時間が短い場合は、新しい電池パック（デンチパック-106）に交換してください。電池パックのご購入については、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお問い合わせください。

❶ **SL-11号BOXのLINE端子に接続した電話機コードを抜きます。**

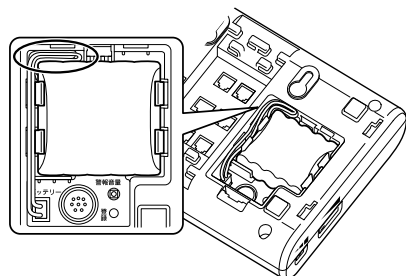
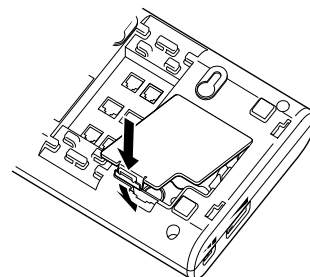
❷ **電源プラグを電源コンセントから抜きます。**

❸ **電池カバーのツメを押しながら、持ち上げるようにして電池カバーを開けます。**

❹ **電池パックのコネクタを抜き、電池パックを取り外します。**

❺ **新しい電池パックに交換し、電池パックのコネクタを差込口に差し込み、電池パックを入れます。**

電池パックのコネクタを差し込める向きは一方向に決まっています。力を入れすぎないように注意して差し込んでください。

電池パックは、電池パック固定用ツメ（5か所）で固定されます。

❻ **電池パックのコードを電池パック固定用ツメとケースの間に通します。**

コードの一部を折り返し、電池パックとケースの間を通します。

このとき電池パック固定用ツメと電池パックの間にコードを挟まないようにしてください。

電池カバーを取り付けます。

8 電源プラグを電源コンセントに差し込みます。

電池パックの充電を開始します。

9 LINE端子に電話機コードを差し込みます。

■ 電池パック回収のお願い

使用済の電池パックなどは貴重な資源です。使用後は端子や接続コードが接触しないように、端子や接続コードにテープを貼るなどの処置をしてから当社のサービス取扱所などへお持ちいただくか、回収を行っている市町村の指示に従ってください。リサイクルの推進にご協力をお願いします。

⚠危険

●電池パックについて

電池パックの取り扱いは、次の点にご注意ください。

・必ず専用のものをお使いください。
・取り出して充電しないでください。
・火の中に投入したり、分解、加熱しないでください。
・端子を短絡させないでください。

ワンポイント

●電池パックの使用可能時間は

電池パックが満充電の状態で停電開始から約6時間以内であれば、通電と同じ状態で1回以上緊急通報が行えます。ただし、オプション機器の接続の有無およびSL-11号BOXやオプション機器の使用状態などによって、通電と同じ状態で緊急通報が行える時間が短くなることがあります。

STOP お願い

●電池パックは、電源プラグを電源コンセントから抜いた状態で取り付けてください。電源プラグを電源コンセントに差し込んだまま電池パックを取り付けた場合は、電池パックの充電を開始しません。

●電池カバーを取り付けるときに、電池パックのコードを電池カバーとケースの間に挟み込まないようにしてください。

●電池パックのコードを無理に引っ張ったり、コネクタを無理に差し込んだりしないでください。

●初めてお使いになるときや電池パックを交換したときは、必ず12時間以上充電してください。12時間以上充電する前に停電になった場合は、電池パックで動作しないことがあります。

●電池パックの取り付けは、あらかじめ静電気を除去してから行ってください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは、次の点をご確認ください。

SL-11号BOXのトラブル

	こんなとき	確認してください	対　処	参照ページ
動作	電源ランプが点灯しない	電源プラグが電源コンセントから抜けていませんか？	電源プラグを確実に差し込んでください	☞設定編
	電源プラグを電源コンセントに差し込んですぐに使用できない	電源プラグを電源コンセントに差し込んでから電源ランプが緑色に点灯するまでの約6秒間は、SL-11号BOXは使用できません	故障ではありません	☞設定編
設定	設定ができない	SL-11号BOXに接続した電話機の回線種別を「プッシュ式（PB）」に設定していますか？	電話機の回線種別を「プッシュ式（PB）」に設定してください 設定方法については、お手持ちの電話機の取扱説明書などを参照してください ダイヤル式（DP）の電話機では設定できません	☞設定編
		SL-11号BOXを電話回線に接続していますか？	故障ではありません お使いになる電話機によっては、SL-11号BOXを電話回線に接続しないと設定が行えない場合があります	☞設定編
		電話機に、ナンバー・ディスプレイ対応通信機器をお使いですか？	故障ではありません SL-11号BOXの電池カバー内部の［登録］スイッチを先のとがったもので約3秒間押し、「プー」という登録音が鳴ってから約3秒後にハンドセットを取りあげてください	☞設定編
通報	通報ができない	電話機コードが正しく接続されていますか？	正しく接続してください	☞設定編
		通報先の電話番号は登録されていますか？	登録してください	☞設定編
		SL-11号BOXのダイヤル種別が正しく設定されていますか？	ご利用になっている電話回線に合わせてダイヤル種別（PB/DP）を設定してください	☞設定編
	ペンダントでの通報ができない	SL-11号BOXの近くに雑音を発生する家電製品などがありますか？	SL-11号BOXを家電製品などから離して設置してください	—
	リモートスイッチS2（オプション）やセンサ（オプション）での通報ができない	リモートスイッチS2やセンサは正しく接続されていますか？	正しく接続してください	☞設定編
	停電していないのに「停電です」というメッセージが送出される	電源プラグが電源コンセントから抜けていませんか？	正しく接続してください	☞設定編
	停電が復旧したときの通報をしない	停電になったときの通報に通報先が応答しましたか？	停電が復旧したときの通報は停電になったときの通報に対して通報先が1か所でも応答した場合に行われます	☞P78
	警報音や警報メッセージが途切れる	通報終了後または設定終了後すぐに通報を行いませんでしたか？	故障ではありません 通報終了後約3秒以内や設定終了後約3秒以内に通報を行うと、警報音や警報メッセージが途切れることがあります	–
	通報のときに緊急通報優先機能が動作する	SL-11号BOXをひかり電話対応機器のアナログポートに接続した場合に、ひかり電話対応機器のバージョンアップお知らせ機能が動作していませんか？	ひかり電話対応機器のバージョンアップお知らせ機能により、通報のときに緊急通報優先機能が動作することがあります ひかり電話対応機器のファームウェアのバージョンアップを行ってください	–

	こんなとき	確認してください	対　処	参照ページ
通報	停電中、通報時にハンドフリー通話ができない	電池パックの電池残量がなくなっていませんか？	故障ではありません 充電してください	☞P77、78
		電池パックの電池残量がなくなったあと停電が復旧したときに、12時間以上充電しましたか？	以下のときは、必ず12時間以上充電してください ・電池パックの電池残量がなくなったあと停電が復旧したとき ・電池パックを取り付けたときや交換したとき 12時間以上充電する前に停電になった場合は、電池パックで動作しないことがあります	☞P30、78、81
		電池パックを取り付けたときや交換したときに、12時間以上充電しましたか？		
電話がかかってきたとき	呼出音が聞こえない	[着信音量]スイッチが「切」になっていませんか？	[着信音量]スイッチを「中」または「大」にしてください	☞P36
		設定中ではありませんか？	故障ではありません 設定中に電話がかかってきたときは、呼出音は鳴らず、応答ランプは点滅しません	☞設定編
	かかってきた電話が切れる	電話がかかってくるのとほぼ同時に通報を行いませんでしたか？	電話がかかってくるのと通報が重なったときは、通報が優先されます	−
		優先通報選択の設定が「優先する」に設定されていませんか？	優先通報選択の設定が「優先する」に設定されている場合は、電話がかかってきているときに通報を行うと通報が優先されます	☞P39、設定編
SL-11号BOXに接続した電話機	電話機の通話が切れる	優先通報選択の設定が「優先する」に設定されていませんか？	優先通報選択の設定が「優先する」に設定されている場合は、通話中に通報を行うと通報が優先されます	☞P39、設定編
	電話機が使えない	通報中ではありませんか？	通報終了後にお使いください	☞P38
		SL-11号BOXのシステムデータを設定したあと、ハンドセットを置いてからすぐにハンドセットを取りあげていませんか？	ハンドセットを置き、3秒以上待ってからハンドセットを取りあげてください	☞P38
	かかってきた電話を受けられない	SL-11号BOXのシステムデータを設定したあと、ハンドセットを置いてからすぐにハンドセットを取りあげていませんか？	ハンドセットを置き、3秒以上待ってからハンドセットを取りあげてください	☞P38
	相手の方の電話番号がナンバー・ディスプレイ対応通信機器に表示されない	設定中ではありませんか？	故障ではありません ナンバー・ディスプレイをご利用の場合、設定中に電話がかかってきてハンドセットを置いたときは、相手の方の電話番号がナンバー・ディスプレイ対応通信機器に表示されないことがあります	☞設定編
	電話をかけるときに、「ピーピーピーピー」という音が「ツー」という発信音の前に聞こえる	SL-11号BOXをひかり電話対応機器のアナログポートに接続した場合に、ひかり電話対応機器のバージョンアップお知らせ機能が動作していませんか？	ひかり電話対応機器のバージョンアップお知らせ機能により、通報のときに緊急通報優先機能が動作することがあります ひかり電話対応機器のファームウェアのバージョンアップを行ってください	☞設定編
ハンドフリー通話	相手の声が小さい	スピーカ音量が小さくなっていませんか？	[スピーカ音量]つまみを調節してください	☞P36、73
		SL-11号BOXやハンドフリーボックスから離れすぎていませんか？	マイクとの距離は、約50 cmを目安としてお話しください	−
		スピーカからの音が大きい、またはSL-11号BOXやハンドフリーボックスを壁に向けて置いているため、ハウリングを防ぐために自動的にスピーカの音が小さくなっていませんか？	[スピーカ音量]つまみを調節して音量を下げるか、SL-11号BOXやハンドフリーボックスを壁から離してください	☞P36、73
	相手の声が途切れる	周囲の騒音が大きくありませんか？	周囲を静かにしてご利用ください	−

故障かな？と思ったら

	こんなとき	確認してください	対　処	参照ページ
ハンドフリー通話	相手に伝わる声が小さい	SL-11号BOXやハンドフリーボックスから離れすぎていませんか？	マイクとの距離は、約50 cmを目安としてお話しください	–
	「キーン」というハウリング音が入る	SL-11号BOXやハンドフリーボックスに手や顔を近づけていませんか？	手や顔を遠ざけてください	–
	SL-11号BOXやハンドフリーボックスのスピーカから聞こえる音がビリつく	スピーカ音量が大きくなっていませんか？	[スピーカ音量]つまみを調節してください	☞P36、73
	相手が電話を切っても通話が切れない	周囲の騒音が大きくありませんか？ 以下のような場合、周囲が騒がしいときは、相手の方が電話を切っても通話が切れないことがあります ・ 着信に自動応答した場合 ・ フリーダイヤルなどへ通報した場合	[とめる]を押して通話を切るか、着信自動応答のハンドフリー通話時間やハンドフリー通話時間を1〜9分に設定してください	☞設定編
		周囲の騒音が大きくありませんか？ かかってきた電話に応答した場合、周囲が騒がしいときは、相手の方が電話を切っても通話が切れないことがあります	[とめる]を押して通話を切ってください	☞P37、72
	通話を始めるときに異音が聞こえる	周囲の騒がしさやご利用の電話回線によっては、通話を始めるときに異音が聞こえる場合があります	故障ではありません	–
テレコントロール	SL-11号BOXが電話に応答する前にSL-11号BOXに接続した留守番電話機が応答してしまう	SL-11号BOXの着信自動応答の遅延時間が、留守番機能付き電話機などが着信に自動応答するまでの時間よりも長い時間に設定されていませんか？	電話がかかってきたときにSL-11号BOXが応答するように、SL-11号BOXの着信自動応答の遅延時間を、留守番機能付き電話機などが着信に自動応答するまでの時間よりも短い時間に設定してください	☞P49、設定編
	テレコントロールができない	通報先でダイヤル式（DP）の電話機をお使いではありませんか？	プッシュ式（PB）またはプッシュ信号を送ることができる電話機でテレコントロールを行ってください	☞P49
	通報が完了しない	音声通報時の通報完了判定が「プッシュ信号受信で完了判定」に設定されていませんか？	「プッシュ信号受信で完了判定」に設定した場合、以下のようなときは応答確認の信号が送られてこないので、通報は完了しません ・ 通報先が留守番電話などで応答したとき ・ 通報先に携帯電話機やPHS対応電話機を登録していて、携帯電話機やPHS対応電話機が電波の届かない場所にいる、または電源が入っていない状態にあり、通信事業者の音声案内などが応答したとき	☞P43
電池パック	電池パックが充電されない	電源プラグを電源コンセントに差し込んだまま電池パックを取り付けていませんか？	電池パックを取り付けるときは、電源プラグを電源コンセントから抜き、電池パックを取り付けたあと、電源プラグを電源コンセントに差し込んでください	☞P30、81
その他	[着信音量]スイッチを「大」や「中」にしても呼出音が聞こえない	[着信音量]スイッチを「大」や「中」の間や「中」や「切」の間にしていませんか？	[着信音量]スイッチを「大」または「中」の位置に合わせてください	☞P36
	SL-11号BOXやSL-10号ハンドフリーボックスが温かい	内部に発熱するところがあり、多少温度が上がります	故障ではありません	–

ペンダントのトラブル

こんなとき	確認してください	対　処	参照ページ
通報ボタンを押したのに通報しない	通報ボタンを押したときにランプが点滅しますか？	ランプが点滅しない場合は電池切れですので、電池を交換してください 電池を交換したときは、電池の向きを確認してください	☞P60
	SL-11号BOXから離れすぎていませんか？	SL-11号BOXに近寄ってください	☞P56
	近くに雑音を発生する家電製品などがありますか？	家電製品などから離れてください	−
	ペンダントをSL-11号BOXに登録していますか？（ワイヤレスセットの場合は登録済みです）	ペンダントをSL-11号BOXに登録する必要がありますので、当社のサービス取扱所までご連絡ください	☞P56

付録 索引

アルファベット

五十音

付録 索引

付録 仕様

●SL-11号BOX

使用回線	一般電話回線、ひかり電話対応機器のアナログポート
ダイヤル方式	DP（10 PPS/20 PPS）または、PB
異常入力	非常ボタン、センサ類4入力、ペンダント
通報宛先	9宛先
通報方式	音声合成方式、PB信号方式、PB信号+音声合成方式、録音音声方式
センタ装置	SR10-Ⅲ、SR10-Ⅴ、SR10-Ⅵ接続可能
電源	AC100 V±10 V 50/60 Hz
予備電源	ニッケル水素電池（デンチパック-106）DC6 V 650 mAh
消費電力	最大6 W（約12 VA）
寸法	約210 mm（幅）×約47 mm（高さ）×約150 mm（奥行き）
質量	約0.7 kg（電池パックを含む）
使用環境	温度：0～40 ℃、湿度：5～90 %RH（結露のないこと）

●小電力型ワイヤレスリモートスイッチ5送信機

電源	コイン形リチウム電池（CR2450）
電池寿命	約2年（常温にて1週間に1回の通報を行った場合）
送信距離	約50 m（見通し距離）
寸法	約46 mm（幅）×約73 mm（高さ）×約21 mm（奥行き）
質量	本体約35 g（電池含む）
ストラップの材質	ナイロン
使用環境	温度：0～45 ℃

電池寿命は、電池製造日から使用開始までの期間や、利用いただく環境の周囲温度、通報を行う回数等、使用環境・条件によっては約2年より短い期間で電池の残量が少なくなります。

●SL-10号ハンドフリーボックス（オプション）

異常入力	非常ボタン、リモートスイッチS2（オプション）
通報宛先	9宛先
電源	SL-11号BOXから供給
寸法	約210 mm（幅）×約47 mm（高さ）×約150 mm（奥行き）
質量	約0.5 kg
使用環境	温度：0～40 ℃、湿度：5～90 %RH（結露のないこと）

付録　保守サービスのご案内

● 保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので、「保証書」は大切に保管してください。
（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

● 保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。
当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	・毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	・修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用、および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますので、ご了承ください。） ・当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

● 故障の場合は

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。
（携帯電話・PHS・弊社以外の固定電話からは「0120-444113」にてお受けしております。）

● 補修用部品の保有期間について

この商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しています。

環境基準ラベル
「ダイナミックエコマーク」について

弊社は、循環型社会構築に向けた環境にやさしい通信機器の提供を推進するために、環境ガイドライン「<追補版>通信機器グリーン調達のためのガイドライン」を設定しております。さらに、より厳しい環境基準を満足した製品をダイナミックエコマーク認定製品と位置づけます。

ダイナミックエコマークは下記条件を満足した製品に適用します。

ダイナミックエコマーク認定基準

<環境に配慮した素材の採用>

- ●弊社が指定する含有禁止物質について製品には使用しません。
- ●弊社が指定する含有抑制物質については、使用を抑制するとともに物質名・量を管理します。
- ●酸性雨で地中に溶け出して人体に影響がある鉛を、製品へ使用することを抑制しています。
- ●焼却時にダイオキシン発生の恐れがあるPVC（ポリ塩化ビニル）、非デカブロ系難燃剤以外のハロゲン系難燃剤の製品への使用を抑制します。
- ●廃棄やリサイクルのために、製品には推奨プラスチック材料（ポリスチレン等）、推奨金属材料を使用します。
- ●取扱説明書等に使用する紙は再生紙を使用し、使用する印刷インキは、オゾン層破壊物質等の含有禁止物質を含まないものを使用します。

<リサイクルしやすい設計>

- ●製品のリサイクル可能率を70%以上とします。
- ●リサイクルを容易にするため、全てのプラスチック製部品に材料名を表示し、リサイクルに支障のない方法で製品名を表示します。

<環境に配慮した梱包材>

- ●発泡スチロールの使用量を削減します。

<省エネルギー>

- ●省エネルギーを考慮した設計を行います。
- ●国際エネルギースタープログラム対象製品は、これに準じた設計を行います。

912377A2

この取扱説明書は、森林資源保護のため、再生紙を使用しています。 環境を考えて大豆インクを使用しています

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報などを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ：http://web116.jp/ced/
http://www.ntt-west.co.jp/kiki/

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：FREE 0120-970413

※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間　9：00～21：00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：FREE 0120-248995

受付時間　9：00～17：00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

本3345-2（2014.12）
SL11-BOXトリセツ